

2014年度 年 報
—自己点検・評価報告書—

天使大学大学院助産研究科

はじめに

教員には、計画し実行した教育・研究活動について自らが評価して改善していく PDCA サイクルによる自己点検評価が求められます。本学では自己点検評価委員会に、自己点検評価に関する方針・実施基準に基づきその実施・報告に関する事項を担って頂いています。2014年度の自己点検評価結果については、報告書の発行に先立って3月の教育研究評議会に報告して頂き、全学的に点検評価の結果を共有しました。今後は評価点検結果に基づき対応・改善するための「Act」の部分について本学のシステムを構築する必要があります。その一環として2015年度は学生による授業評価に応える教員側の対応についてFD委員会において検討して頂くこととしました。教育・研究の多忙な中での授業評価への対応となりますので、授業評価の項目についても併せて検討頂くことにしました。その検討結果を教育研究評議会や教授会等で共有し、講義等の改善に生かしていくことを願っております。大学という有機体の前進のために自己点検評価委員会が引き続き、本活動を熱心に推進して下さることを期待しております。

ところで、2015年度の教学の重点目標の一つに大学院の充実を挙げましたが、専門職大学院としての充実した実習の遂行のためにさらなる教員の充足が必要です。また、研究時間の確保や新任教員への教育・研究支援のためにも市内の臨地実習先確保等による教員負担の軽減が必要と考えております。

さて、ここに、2014年度年報をお届け申し上げます。学外関係者の皆様には、平素の本学の運営へのご理解、ご支援を深く感謝申し上げますと共に、本年報にお目通し頂き、ご意見、ご批判を頂きたく存じます。ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

2015年6月

天使大学
学長 武藏 学

自己点検・評価報告書

目 次

I. 教育課程	1
II. 院生の受け入れ	2
III. 教員組織	3
IV. 研究活動・研究環境	4
V. F D活動等	6
VI. 社会貢献	8
VII. 国際交流	10
VIII. 学生生活・就職支援	11
IX. 図書館	14
X. 情報処理システム	15
XI. 施設・設備	16
XII. 管理運営	17
XIII. 財務	18
XIV. 事務組織	19
XV. 自己点検・評価活動	20

I. 教育課程

担 当： 助産研究科教務委員会（教務）

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 修了時到達目標の明確化とカリキュラム改正に向けての検討（継続） 2. 実習環境の充実 3. 実習評価の検討
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産教育分野の開設から5年を経過し、助産教育分野のカリキュラムの改正を行った。カリキュラムの改正にあたっては、前年度に日本助産認証評価の際に指摘を受けた改善点に重点を置き、助産研究科内での検討後、日本助産評価機構との検討も重ねた。改正カリキュラムは文部科学省からの認可があり、次年度から施行する。 改正の主な点は以下のとおり ①助産教育分野の修了要件の取得単位を56単位46単位へ変更 ②助産教育分野の助産教育科目の編成 ③助産教育分野の助産教育科目の変更 修了時の到達目標の明確化については十分な検討に至らず、次年度に継続となった。 2. <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習や臨床指導者会議等を通して、臨床助産師や実習指導教員と大学教員との間で当研究科の特徴とともに実習目標や実習方法について共通理解が深まった。その結果、院生の個性や背景を考慮した適切な実習指導につながった。 2) 実習施設（地域）によっては実習指導教員が確保できていないところがある。助産の実習指導ができる人材確保が今後の継続課題である。 3) 数年来の依頼が実り、前年度に実習施設として開拓できた地域周産期母子医療センターでもある公立病院で助産基礎分野の基礎実習を行った。 4) 大学院の近距離圏内で分娩件数の多い産科施設を、新たに実習施設として開拓できた。 3. 基礎分野の統合実習Ⅰの実習評価として、教員FDで学習と検討を重ねループリック評価表を作成し、実施した。今後は、適切な評価に結びついたかの分析・検討を行い精錬していく予定である。
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 修了時到達目標の明確化（継続） 2. 実習環境の充実を図る（教員・実習指導教員の充足等） 3. 実習評価の検討（継続） 4. 実習施設の開拓（継続）
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>実習指導員の確保や近隣の実習施設の開拓など、継続的な課題の解決に向けた検討に期待します。</p>

II. 院生の受け入れ

担当： 助産研究科入試・広報委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 限られたマンパワー・予算の中で、「アドミッション・ポリシーに合った志願者」が増加するよう、広報効果の最大化を図る。 円滑な入学試験の実施・運営に万全を期する。
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 活動目標を達成するため、主として以下の活動を行った。 <ol style="list-style-type: none"> ①助産研究科パンフレットは「見出し・コピーの変更」、「実習科目、発展・展開科目の内容充実」、「大学院生対談の追加」等の改善を行い、ストロングポイントがより鮮明に伝わるようリニューアルした。 ②本研究科への受験資格をもったターゲット（看護学生、看護師、助産師）への訴求力を高めるため、「リスティング広告」、「読者層が本研究科ターゲットと重なる雑誌への広告出稿」に注力した。 ③助産研究科ちらし・ポスター・パンフレット・学生募集要項を病院・看護大学等に一齐送付した。 ④6月の天使祭でミニオープンキャンパスを開催し、参加者は13名（昨年度16名）と、例年並みであった。 8月に開催したオープンキャンパスは、参加者が23名（昨年度31名）と大幅に減少した。また昨年度に引き続き「ユーストリーム」によるライブ配信を行い、リアルタイムの視聴者は28名（昨年度53名）と減少したが、アーカイブの視聴者は99名（昨年度57名）と増加した。 ⑤本学看護学科学生（3、4年次生）に対する学内説明会を実施した。 ⑥「オープンキャンパスの開催」や「入学試験の出願開始」を告知するため、資料請求者等に対しメールマガジンを配信した（年5回）。 推薦入学試験、前期試験（一般入学試験、社会人入学試験）、後期試験（一般入学試験、社会人入学試験）に加え、今年度は助産研究科退学者からの申し出により「再入学試験」を実施した。個人面接試験の面接員を3名から2名に減員するなどの変更を加えたが、入念に準備を進め、全体として円滑に入試業務を遂行した。
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 助産研究科パンフレットは、実習ページに写真・図を使用するなど、その内容・特徴がより視覚的に伝わるように、さらなる改善を図る。また、パンフレットが「6月のミニオープンキャンパス」時に配布できるよう、完成時期を早期化させる。 助産研究科のwebサイトページの内容を充実させるとともに、本研究科のターゲット（看護学生、看護師、助産師）がそのページを訪問しやすくなる導線を作る（SEO、リスティング広告、行動ターゲティング広告等）。 8月オープンキャンパスの動員を増加させるため、参加するメリット・魅力を感じさせるコンテンツを検討する（簡単な助産の体験学習等）。また、現在のコンテンツのブラッシュアップを図る（施設見学の改善等）。 助産研究科ちらし・ポスター・パンフレット・学生募集要項の送付先・送付内容を精査する（本研究科への志願者が多い大学・病院、助産師の奨学金貸与制度がある病院を重視し、送付部数を増やす等）。また、新たに「看護系予備校（助産師養成校への進学希望者対象）にも送付する。 昨年度まで続けていた道内看護系大学・専門学校の母性看護学担当教員等への訪問を再開し、本研究科の強みを直接伝えるとともに、学内での説明会開催を打診する。 天使大学 看護学科学生に対する広報活動を強化する。 <ol style="list-style-type: none"> ①看護学科学生に向けた助産研究科大学院院生によるオフィス・アワーを実施する（内容は個別相談、院生学習室・実習室の見学等）。 ②助産研究科パンフレット・ちらしを看護学科全学生に配布する。 ③看護学科学生対象の「助産研究科 公開授業」を実施する。 医療機関の看護管理者および臨床助産師に向けて助産教育分野の説明機会を設ける。
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>ライブ配信、紙媒体やオープンキャンパスでの広報等、多様な広報活動を展開されたことを評価します。今後も、本研究科のメリットをアピールして、志願者増加につながるような工夫をされることを期待します。入学試験については、今後も円滑に実施されることを期待します。</p>

Ⅲ. 教員組織

担 当： 助産研究科教務委員会（教務、実習）

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員の充足・強化をはかる 2. 新入教員のキャリアラダーの検討
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 9月末日で助教1名、助手1名の退職があったが、10月から助産師として豊富な臨床経験をもち、当助産研究科助産教育分野を修了した講師1名、助教1名の入職を得られたことは、教員の充足および授業・実習の充実・強化につながった。 2. 新入教員に対するオリエンテーションについては、項目、内容、資料、担当の分担の毎年の見直しを経て、体系的かつ具体的なものとなってきた。今後は、新入教員の臨床経験や教育経験等の背景を、より考慮していきたい。 教員のキャリアラダーについては全国助産師教育協議会で検討されている（案）を参考にしながら、専門職大学院の教員としてのキャリアラダーを構築できるように継続検討していく。
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習に関わる教員の充足（継続） 2. 助産教育分野における教員組織の強化 3. 専門職大学院における教員のキャリアラダーの検討
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>評価内容が昨年度と同様の記述のみで変化ありません。教員組織については教育内容、研究環境のあり方から、また昨年度の自己点検評価委員会からのコメントと合わせ、定期的な検証を具体的に進めてください。（自己点検評価委員会）</p> <p>専門職大学院としての充実した実習の遂行のためにもさらなる教員の充足が必要です。研究時間の確保や新任教員への教育・研究支援のためにも市内の臨地実習先確保等による教員負担の軽減が必要と考えます。（学長）</p>

IV. 研究活動・研究環境

担 当：学術振興委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究意欲の発揚と共同研究推進のために研究報告会の定例開催を行う。 2. 紀要第 15 巻第 1 号は 4 月～12 月の 9 か月間、第 2 号は 7 月～3 月の 9 か月間を応募・査読・編集期間とした。昨年度同様、電子化・公開の上、学内希望者に冊子体(仮製本)を作製し配付する。 3. 競争的外部資金導入のための情報を収集し、提供する。 4. 研究に関する「よろず相談」を継続して実施し、研究環境整備について検討する。 5. 若手研究者育成のための方策を検討し、実施計画を立てる。 6. 本学リポジトリの収録コンテンツに関する整備を行う。 7. 本学の教育研究に関する講演会を企画・実施する。
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期は紀要執筆者 3 名の研究発表が行われた。今回は新任教員の発表がなかった。後期は、特別研究費による研究 12 件が発表された。栄養系 7 件、看護系 3 件、教養系 1 件、看護栄養学研究科 1 件であった。 2. 紀要第 15 巻第 1 号には 2 件の投稿があった。第 2 号には当初数件の応募があったが辞退が続いたため、日程を 2015 年度にまたがる 6 月末刊行に繰り延べ、再募集を行った。印刷業者を変更したことで、予算が 4 割減となり、編集工程がスムーズになったことは評価できる。 3. 科研費獲得のための講習会を会議システム Live On を使って実施。東京、大阪で好評の久留米大学の児島将康教授に依頼し、九州からのライブ中継で行うことができた。財務室と連携したこの種の企画に弾みがつき、今後に期待がもてる。 4. よろず相談は今年度なかった。研究環境整備については、学校教育法などの改定があったため、引き続き取り組む課題とした。 5. 一部教授のもとで、助教ないしは助手の指導が行われ、栄養管理学専攻で論文博士 2 名が誕生した。今後は組織的な取り組みが課題といえる。 6. 紀要については順調に登録が進んだ。博士後期課程の博士論文については、2012 年度分までの登録許諾も得ることができ、最新分まですべて登録公開した。 7. 昨年度に引き続き、神戸大学の 大澤 朗氏に講演をお願いし、今回は栄養学科の学生にも興味深い『細菌性食中毒にみる我が国の食の安全の現況と展望』と題しご講演を依頼した。 8. 今年度は、助産研究科からの科学研究費、特別研究費への応募並びに研究報告がなかったが、来年度に向けて研究費獲得と研究活動の推進をしていく。
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究意欲の発揚と共同研究推進のために研究報告会の定例開催を行う。 2. 紀要第 15 巻第 2 号、第 16 巻を発刊する。 3. 競争的外部資金導入のための情報収集と研究環境整備について検討する。 4. よろず相談を継続し、若手研究者育成のための具体的方策を検討する。 5. 本学リポジトリの収録コンテンツに関する整備を行う。 6. 本学の教育研究に関する講演会を企画・実施する。 7. 助産研究科としての研究活動（教育評価と教材開発）の推進
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>委員会は学部と共通ですが、活動内容の評価に助産研究科独自の内容が記載されており、自己点検評価活動の独自性として評価できます。</p>

IV. 研究活動・研究環境

担 当：研究倫理委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理審査に関わる手続きの整備 2. 審査申請へのサポート体制の構築 3. 研究倫理に関する啓発活動と情報提供
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. まず、栄養学科の卒業研究に関する審査手続きを変更した。卒業研究に関してはこれまで栄養学科所属の委員の中で審査した結果が当委員会で報告・承認され、当該学生に審査結果が通知されてきたが、①卒業研究は正課内の科目であり研究指導は授業の一部であること、②学会発表・論文公開等を伴わない研究は現行の倫理指針でも倫理審査の対象外であること、という理由から当委員会の審査対象から外した。ただし、卒業研究であっても学会発表や論文公開の可能性があるもの、採血など侵襲性のあるものについては従来通り、委員会として倫理審査の申請を促し、その際は指導教員が倫理審査の申請を行い、学生については共同研究者として申請書に記載することとした。これにより倫理審査の手続きが一本化されスムーズな審査ができるようになった。 次に、「天使大学における倫理審査のためのチェックリスト」を作成し、次年度より運用することとした。リストの内容は過去の倫理審査で頻繁に指摘されてきた事項で、事前に申請者自身が必要書類や事項等を確認できるように整備した。 2. 事務局を担当している財務室スタッフおよび委員長が申請に際して対応した。今年度は全体で29件の倫理審査があったが、中には申請に必要な資料等の不備が著しいものが数件あり、その対応にかなりの時間を要した。次年度からは上記チェックリストの運用が始まるのでこの点の改善が見込まれる。 3. 年度始めの4月に教員および院生対象に説明会を行い、本学における倫理審査申請の手続きの仕方について案内する機会を設けた。その際、申請書を書く際の注意点について過去の審査で多く指摘された点を記載した文書も配布し注意を促すことができた。
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次年度から運用を開始する倫理審査のためのチェックリストを活用しながらさらに迅速な倫理審査を実施すること。 2. 新倫理指針「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に合わせた当委員会規程の見直しとそれに伴う一部事業の予算化。 次年度から施行される国の新指針に合わせて当委員会規程を見直し、委員会構成員の変更（複数の外部委員ほか）をはじめ、情報公開、モニタリング・監査の仕組みづくり、倫理研修の実施など、委員会としての業務の見直しを盛り込んだ規程案を、次年度内に教育研究評議会に提案する。同時に、これまで当委員会には予算が一切ついていなかったが、外部委員の登用や研修会の実施に伴う予算措置を今後講じ、再来年度予算案に具体的な数字を計上する。 3. 研究倫理に関する啓発活動と情報提供。 年度始めのガイダンスのほか、研究倫理に関連する各種情報の提供をメール等も活用しながら随時実施。
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>昨(2013)年度では報告がないため、前年度からのPDCAサイクルの継続性は不明です。 本(2014)年度に示された次年度への課題が、次(2015)年度の活動目標に繋がることを期待します。</p>

V. FD活動教育活動

担 当：FD委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の授業評価アンケート結果を用いた全学的規模の授業改善体制の運営（公開方法とその検証方法の確立）。 2. カリキュラム（学部・学科・科のCPやDPと各授業を繋ぐ）に関するFD活動 3. シラバスに関する研修成果の検証 4. すべての実習要項の再検討 5. 実習のルーブリック評価表の作成
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2014年度前期の学生による授業評価アンケートの集計結果を用いた「授業改善シート（仮称）」実施に向けて行程表を4月に作成し、教務委員会と協力して実施予定であった。しかし、学長から学科・科での審議を経て、その結果を基に実施自体を再考するよう要請を受けた。 学科・科からの意見を基に再考した案を提出し、その結果を受けて、学長、教務部長、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、FD委員長による検討会が開催されたが、「学生による授業評価アンケート」の実施内容（項目および項目数）および方法（毎年、隔年、特定教員のみ）の見直しをFD委員会が行うこととなり、「授業改善シート（仮称）」の実施は事実上中止となった。 2010年度からFD委員会で継続検討し2014年度事業計画書および予算のヒヤリング（2014年2月）を経て新規事業として承認された計画が中止となり、授業改善への全学的な取り組みが実施できなくなったことは非常に残念である。 2. 札幌市立大学看護学部教授の定廣和香子氏を招き、3月4日に「統合カリキュラム編成の実際」と題した講演会を開催した。出席者は48名であり、講演会終了後のアンケートからも満足度の高いFD研修会を開催できたと考える。 助産研究科からは7名（出席率64%）の教員が参加した。 3. シラバスに関する研修成果の検証として、各学科・科の委員が「天使大学2014年度履修要項・授業概要」を基に、前年度の研修会で配付された「第21回北海道大学教育ワークショップ（平成21年）」の「ミニ講義 教育評価（p.47-53）」や大学設置時に文部科学省に提出した開講科目の資料などを照らし合わせ、研修効果の検証を行った。 その結果、文部科学省に提出した開講科目の目的と必ずしも全てが一致していないことが判明した。シラバスに関する研修会の検証をしたことは評価できるが、今後、これをどう活かしていくが課題が残った。 4. 看護栄養学研究科FD研修会：2月18日村田 久行氏による「質的研究方法論」に教員5名と教育分野院生4名参加し、満足のいく内容であった。 5～7. 別紙参照
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. すべての実習要項の再検討：統合実習Ⅱ、独立助産実習 2. 実習のルーブリック評価表の作成：基礎実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、統合実習Ⅱ、独立助産実習
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>「学生による授業評価アンケート」のFD委員会による見直しに期待したい。また、シラバスに関する研修成果の検証と今後の展開が期待される。</p>

V. FD活動教育活動

担 当：助産研究科FD委員

【活動内容の評価】

4. すべての実習要項の検討のうち、今年度はマタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの実習要項の検討を行った。①実習目標・実習方法の検討：Ⅰ（妊娠期）Ⅱ（出産期）Ⅲ（産褥・新生児期）毎に教員2名～3名で行った後、全員で検討し、訂正を行った。変更したのは実習目標3の専門職業人に求められる基本的態度を身につける、に「主体的に実習に臨む」を追加し、行動目標も4つ追加した。実習では院生の理解が深まり、常に意識した行動がみられる院生が増加した。
5. 基礎実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの実習要項の検討の2番目として
- 1) 評価法の検討を行った。
 - (1) ルーブリック評価法についての学習会
 - (2) マタニティサイクル助産ケアⅠ基礎実習（妊娠期）Ⅱ（出産期）Ⅲ（産褥・新生児期）毎にルーブリック評価を作成。メンバーは実習要綱のメンバーと同じ。
今年度は学習会で共通認識を持つことができた。科目毎の作成の途中で時間切れとなり、次年度の継続課題とした。
 - 2) マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅰの要項検討。
実習目標の検討後、ルーブリック評価表を作成し、実施した。院生と教員間のズレが少なくなる利点もみられたが、精度を上げるためにも継続検討とする。
6. FD研修
- 第1回目：4月28日（月）①実習目標・実習内容の科目毎検討及び
ルーブリック評価の学習：7名
- 第2回目：4月30日（水）②実習目標・実習内容の全体検討：7名
- 第3回目：5月 7日（金）③科目毎のルーブリック評価表の作成：7名
- 第4回目：5月14日（金）④科目毎のルーブリック評価表の作成：7名
- ※ ルーブリック評価の共通理解と、科目毎のルーブリック評価表の作成に時間を要し、次年度の継続課題とする。
- 第5回目：10月 7日（火）①統合実習Ⅰのルーブリック評価表の作成：3名
- 第6回目：10月 8日（水）①統合実習Ⅰのルーブリック評価表の作成：3名
- 第7回目：10月10日（木）①統合実習Ⅰのルーブリック評価表の検討：7名
- ※統合実習Ⅰのルーブリック評価を作成し、実習で使用した。
7. 学外研修
- 1) 全国助産師教育協議会 北海道・東北ブロックコロキウム
2015年3月14日（土）13:00～17:00 天使大学大学院8306講義室
テーマ「将来の助産師教育を考える—あるべき卒業時の到達像と教育—」
参加教員：7名
※当番校であったが、企画は全助協が行い、全国6ブロック同じテーマで行い、北海道、東北ブロックが最後の研修であった。参加者は24名＋7名＝31名。
現行の助産師教育が4種類あり、大学院教育が増加してきている。
全助協に加入している教員の8割が2年間の助産師教育を望んでいる。
教育機関が1年間と2年間の違いがある為、卒業時の到達度は違うと考える。

VI. 社会貢献

担当：地域連携等委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2014 年度天使大学・北海道薬科大学公開講座の実施・運営及び 2015 年度公開講座の企画・検討 2. 東区役所との連携事業及び 5 者（東区役所、本学、札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部、専門学校北海道体育大学校、札幌保健医療大学）連携事業の推進 3. 大学間（北海道薬科大学等）の連携事業等の展開 4. 地域・他大学との連携事業の実態把握
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 北海道薬科大学（以下、「薬科大」という）と連携した公開講座は今年度で4回目である。薬科大と連携することにより、医療、薬、看護、心理学等で幅広い分野から講座を実施することが出来た。受講生は 2013 年度と比較すると 1.4 倍増加した。アンケート結果（別紙1）からは地域住民への有意義な講座を実施することができた。今後も、地域住民にとって有益な企画を立案していく。 2. 東区役所と連携し地域住民対象に9件の事業を行った。各事業とも本学教員と学生ボランティアが協力し、本学の質的資源が地域住民に還元されたことは評価できる。これらの事業に関して新しい企画をふまえ継続できるようサポートする。 2014 年7月より札幌保健医療大学が東区役所と協定を結び東区5者連携事業として「東区×教育機関連携公開リレー講座」企画・運営した。今年度は1日に4教育機関が講演する方法に変更し実施した。受講生は 2013 年度とほぼ同じであった。この結果（別紙2）をふまえ、次年度の企画について5者で検討する。 3. 大学間連携として、薬科大が主体で実施している夕張地域医療体験への学生参加者の募集を行い、事前準備・事後の報告等に係わった。実習体験の効果がみられたので今後も継続していく予定である。 4. 本学と地域・他大学との連携事業の実態を把握し、次年度以降も継続する。 <p>※ 助産研究科による社会貢献は、別紙 VI. (2) 社会貢献へ</p> <p>※</p>
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公開講座で薬科大と連携することの利点を生かし、企画、運営について検討する。 2. 東区役所との連携事業について検討する。また、5者連携では、それぞれの組織が持っている資源の有効活用について検討する。 3. 薬科大との連携事業では、夕張地域医療体験への学生参加者の支援、連携内容について薬科大から提案されたことについて検討する。また、他大学との連携等についても検討する。 4. 本学教職員が地域・他大学と連携する事業等を掌握し、地域社会へ貢献している現状を整理する。
<p>評価委員会からの評価</p>	<p>助産研究科も加わった本学と東区役所との連携による地域住民に対する授業展開は評価できる。また、北海道薬科大学との連携による「公開講座」も評価されるべきものと考えられる。次年度も期待したい。</p>

VI. 社会貢献

担 当： 助産研究科教務委員会（教務）

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域、教育機関、職能団体の活動ニーズに応じて教員を派遣し専門職として社会に貢献する。 2. 助産関係の職能団体等の活動に参加し、助産師専門職の社会的役割に貢献する。
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本私立看護系大学協会会長を務め、看護や助産等の教育向上に関する提言や講演を行っている。（特任教授） 2. 全国助産師教育協議会「ファーストステージ研修」の講師を務めた。（特任教授1名、教授1名） 3. 全国助産師教育協議会「ファーストステージ研修」の研修生を、助産教育分野に一定期間受け入れた。 4. 能力資格専門委員として第98回助産師国家試験の分析を行った。 5. 北海道助産師会会長、副会長を務め、助産師の資質向上と周産期における母児の安全、子育て中の母親への支援強化を行っている。（教授1名、准教授1名） 6. 日本看護研究学会北海道地方会の研究奨励賞選考委員を務めている。（教授1名） 7. 北海道思春期研究会幹事を務めている。（教授1名、准教授1名） 8. 第3回胆振地区新人助産師教育研修会の講師を務めた。（講師1名） 9. 実習病院で、臨床助産師を対象にした勉強会「母性健康管理に関する最新の法律と施策」の講師を務めた。（教授1名） 10. 看護専門学校で「災害看護」の非常勤講師を務め、災害時および災害後における女性や母子、子どもに対する支援について講義を行った。（教授1名） 11. 北海道庁と助産研究科とのタイアップ事業として、天使大学を会場に、次代の親づくりセミナー『親になること、いのちをつなぐこと』をテーマに映画「生まれる」の上映と山本文子氏の講演会を開催し、約100名の参加者があった。 12. 北海道庁と助産研究科とのタイアップ事業として十代の妊娠に対する相談事業：「にんしんSOSほっかいどう」の広報への協力としてポスターやステッカーの作成を行った。完成後、道より、中学校から大学などの教育機関をはじめ関係機関へ配布された。（院生6名、教授1名） 13. 女子中学校からの依頼要請を受け、性教育実習履修院生による性教育（思春期教育）授業を実施した。（院生4名、教授1名）
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関係専門職団体や学会、研修会等による助産師専門職の資質向上へ貢献する。 2. 女性や母子の健康と幸福のために、行政との連携、協働を強化する。
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>地域、教育機関および職能団体など多数の活動に教員を派遣し、専門職として社会に貢献している点は評価できる。次年度も期待したい。</p>

VII. 国際交流

担 当： 助産研究科教務委員会（教務）

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際助産実習における院生の安全確保、健康管理を行う。 2. 助産師の資質向上および助産教育の在り方について国際的な情報を得る。
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今年度、国際助産を選択した院生は6名であった。3人ずつ2班に分け、マダガスカルのアベマリア産院での実習を行った。現地の安全への配慮として、実習受け入れ側の修道会に空港から実習地域までの送迎を依頼要請した。また、滞在中の宿泊施設は、実習施設敷地内の修道院とし最大限の安全対策をとった。さらに、昨年同様、マダガスカルやアベマリア産院の状況に通じている実習指導教員1名を日本より配置した。1班のメンバーでは、実習期間中、体調不良となる院生が複数だったが、実習指導教員の適切な対応により早期の医療機関受診ができ、結果、早期の回復に結びついた。実習についても目標を達成することができた。 2. 第30回プラハ大会に2名の教員が参加した。(特任教授、准教授)。 3. 第30回プラハ大会において研究発表を行った。(准教授)
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 安全な国際助産実習のための整備 2. 第11回アジア太平洋地域会議・助産学術集会への参加
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>マダガスカルで実施の「国際助産」科目を選択した院生が数名いたこと、また実習目標を達成できたことは評価できる。次年度も期待したい。</p>

VIII. 学生生活・就職支援

担 当：教務委員会（学生生活・就職）

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生生活全般への支援 2. 学生の健康支援 3. 学生生活実態調査実施 4. 学生課外活動への支援 5. 就職支援
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生生活全般への支援 <ol style="list-style-type: none"> 1) メンターシップによる学修・生活支援の充実 入学時から学生一人一人にメンター（よき助言者）となる専門教員をおき、学習進度を確認し、学生の専門職者としての自己課題の発見および成長に必要な指示、方向付け、フィードバック等の支援を行った。また、学生生活全般（健康状況含む）についての相談役となり、支援を行った。 2) 学生の経済的支援 奨学金は、天使大学奨学金、天使大学同窓会、日本学生支援機構奨学金、日本助産師会奨学金、北海道看護職員修学資金等を紹介し経済的支援を行った。また、地方自治体や団体等の奨学事業も積極的に紹介した。 3) 学生生活ガイドブックの充実 学生生活ガイドブックを発行し、全学生・教職員へ年度初めに配布した。学生生活全般について理解できるよう学生生活ガイドブックの内容を充実させた。 4) 事件事故の予防 実習で夜遅く帰宅することが多いため、「防犯ブザー」を全学生に配布した。また、「護身術」講習を実施し、事件に遭わないよう啓発活動を行った。 災害傷害保険（日本看護学校協議会共済会の共済制度「WILL」）への加入を義務づけ、実習中等に傷害・賠償・感染事故が発生した場合の対応策をとった。 2. 学生の健康支援 <ol style="list-style-type: none"> 1) 保健相談室の現状 学生の定期健康診断はセット検診（X線撮影、身体計測、聴力、聴打診、血液採取等）を実施した。また、季節性のインフルエンザ感染予防対策としてマタニティサイクル助産ケア統合Ⅰ実習の開始前に予防接種を奨励し、全員が接種した。 2) 学生相談室の現状 学生相談室の相談員を2名体制とし週5日の開室日を設け、月曜日から金曜日までいつでも相談を受けられる体制を継続した。実習開始前の5月に全学生へ学生相談室員による「ストレスの対処法」についての講話を行った。 3. 学生生活実態調査「天使大学大学院生学生生活についての調査」の実施 教育分野・基礎分野2年次生に修了前に学生生活実態調査を実施した。 4. 学生課外活動への支援 1年次生が合唱コンクールに参加した。 5. 就職支援 1年次生対象に接遇ガイダンス、2年次生対象に就職ガイダンスを実施した。就職活動ガイドブックを配布した。就職相談室の活用及び周知を強化した。
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生生活全般の支援については、メンターシップの強化を始め、「天使大学大学院生学生生活についての調査」結果を分析し、よりよい学生生活支援を実施するためさらに検討していく。 2. 経済的支援として、各種奨学金紹介のより一層の充実を図る。 3. 健康支援については、今後も学生相談室、保健相談室の相談員と連携し、更なる充実を目指す。特に実習開始前に学生相談室と連携し、支援強化を行う必要がある。 4. 就職支援については、学生のニーズに応じた支援体制の強化が課題である。
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>学生生活全般への支援、健康支援や就職支援において、その実施に十分な配慮がなされていることは評価できる。次年度も期待したい。</p>

VIII. 学生生活

担 当： 宗務委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 宗務関係行事の企画運営 2. 学生にキリスト教精神を理解してもらう 3. 教職員に建学の精神を理解してもらう 4. 教育理念に即した環境の整備 5. 教育理念に関する研修会への参加 6. カトリックセンターとの連携 7. アッセンブリー・アワーの調整
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 宗務関係行事関係の企画運営 宗務関係行事の運営については、特別なミサ（イースターの集い、死者追悼のミサ、創立記念日のミサ、クリスマスのミサ、新年のミサ、教職員退職へ感謝の意向を持ったミサ、卒業修了感謝のミサ）や毎週のミサ、儀式等（マリア様の戴冠式、クリスマスツリー点灯式、クリスマスキャロル、灰の儀式）、実習前のミサや国家試験の合格祈願ミサ等を通して、学生・教員にキリスト教精神の理解を深めるようにした。 2. 学生がキリスト教精神を理解するための企画 <ol style="list-style-type: none"> 1) 入学時と修了前に修養会を企画してミサや祈りをとおして、「キリスト教」についての理解を促した。 2) 「カトリック医療関連学生セミナー」参加への広報 学部生5名が参加したが、助産研究科からの参加は実習中のためできなかった。 3. 教職員修養会の実施 カトリックセンターが講師の人選と企画を行い、宗務委員会が協力をして実施している。今年度は、12月8日に行った。 出席者へアンケートを取ったところ、満足度が高かった。 助産研究科は、実習中のため出席できた教員は1名であった。 4. アッセンブリー・アワーの調整 講義期間中にアッセンブリー・アワーを設けると共にプログラムについて調整を行った。
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特別のミサや毎週のミサの参加率を上げる。 2. 修養会の内容の充実についてのさらなる検討。 3. 学生がキリスト教についての理解を深めるためのアッセンブリー・アワー内容の工夫と企画。 4. 年末の教職員修養会実施であったため、参加しやすい日程の検討。 5. 前年度退職したシスターに代わる人材の確保をカトリックセンターに要望。
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>キリスト教の精神の理解と深化のため、カトリックセンターと連携をして人材の確保や修養会などの企画の充実を図り、宗務関係行事への学生や教員の積極的な参加者数が増加するように期待します。</p>

Ⅷ. 学生生活

担 当：キャンパス・ハラスメント対策委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<p>キャンパスにおける人権意識を成熟させ、大学生生活環境を快適なものとするためハラスメント問題について啓発・点検・問題解決を行なう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講演会の開催により学生、教職員の理解を深める。 2. 新入生を対象に学生ガイダンスを実施する。 3. キャンパスハラスメント実態調査アンケートの実施により現状を把握する。 4. キャンパスハラスメントのためのポスター作成などにより全学的に啓発活動を行なう。
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. キャンパスハラスメントに関する講演会を2回開催した。 <ol style="list-style-type: none"> ①10月14日(火)13:30~14:30 「キャンパスハラスメントを考える」Sr.木村晶子氏(藤女子大学 教授)。対象は看護栄養学部新入生、大学院生、教職員。 学生の参加状況：看護学科59名(63%),栄養学科56名(65%),助産研究科23名(96%)。参加者は昨年よりも多く熱心に聴講していたが、学部1年生の参加が65%以下であることは、関心が低いためと考えられる。今後、学生の関心や理解を深めるために学習の機会を増やすなど啓発活動の促進が望まれる。助産院生へは授業の中で周知した。 ②3月3日(火)13:30~15:30「キャンパスハラスメント相談のあり方：ハラスメントカウンセラーの立場から」武田弘子氏(北海道大学保健センター 臨床心理士)。対象は教職員。参加者は約40名。実例を示しながらの説明で理解を深めることが出来た。次年度も継続的に開催し、全教職員への周知徹底が必要である。助産教員3名参加。 ③「パワーハラスメント対策取組支援セミナー」研修会へ委員1名が参加した。 2. 新入生へのガイダンスはパンフレットを配布し行なった。 3. キャンパスハラスメント実態調査アンケートを実施し、結果の集計と分析を行なった。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 回収率(对在学生数)：看護学科72%, 栄養学科45%, 助産研究科88% (全体61%) 2) 教職員と学生間にハラスメントがあると認識した学生は49名、学生間の場合は18名であった。助産院生の認識した人数が多く、安全な学習環境の対策が急務である。 3) 多くの自由記載があり、意見の中には不満や苦情なども含まれていたが、出来るだけそれらを尊重し公表することとした。各委員会などに関連する意見については、今後の活動に反映されるよう検討を求めることとする。 4) 公表は、学内LANに掲載すると同時に冊子にまとめ、全学生、教職員に配布した。なお、公表に際しては個人名の公表はしない。 5) アンケート調査の結果から、学生と教職員間のハラスメント防止のためにはハラスメント防止委員会と連携・協働し、計画的に啓発活動を進めていくことが重要であることが確認された。 4. 啓発活動のためにキャンパスハラスメント防止委員会の相談員名を含めたポスターの掲示を行なった。
<p>次年度への課題</p>	<p>キャンパス・ハラスメント対策委員会とハラスメント防止委員会の連携を強め、学生、教職員の認識を高める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生へのキャンパスハラスメントに関する正しい知識や認識を深めるため、講演会などを実施する。 2. 学生のキャンパスハラスメントのための相談窓口や意見箱設置などについての具体的検討と学生への周知が必要である。 3. 各委員会と連携・協力し、研修会などを計画・実施して、キャンパスハラスメントに関する認識を高める活動が必要である。
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>キャンパス・ハラスメント実態調査アンケート結果で公表された結果を踏まえ、次年度への課題に向けた検討を期待します。</p>

IX. 図書館

担 当：図書情報委員会

本年度の活動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 機関リポジトリの構築と管理及び運用に関する規程整備 2. 機関リポジトリの周知と愛称募集 3. 図書館オリエンテーションや文献検索ガイダンスの見直し 4. 図書館ホームページの維持管理と Facebook 機能の活用 5. 洋雑誌の利用頻度調査結果に基づく継続購読見直しと電子ジャーナルへの切り替え 6. 図書館内利用のためのノートパソコン貸出サービス開始：情報処理システム参照 7. 日本カトリック大学連盟図書館協議会総会および実務研究会当番校(藤女子大と共催) 実施日：2014年6月27日(金) 会場：藤女子大学 8. 将来構想等への新館建築素案の提示(情報処理室を含む)準備 9. 防災に関する計画の策定と必要備品等の準備(情報処理室を含む)
活動内容の評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国立情報学研究所の共用リポジトリを利用し、予定どおり2014年4月1日に運用を開始した。管理運用規程を策定し、当初は紀要と博士論文を収録した。現在、紀要137件、博士論文8件、震災プロジェクトのレシピ集2件の計147件が収録され、ダウンロード数15,312件、閲覧数8,862件となっている。 2. 馴染みにくい機関リポジトリに関心をもつていただくため、愛称募集を実施。一般の方を含めた投票で『Snowdrop』に決定した。現在 Snowdrop の球根を育成中。 3. 講義時間中の文献検索ガイダンスに止まらず、積極的に文献検索を行おうとするあるいは高学年で文献検索ができない学生を対象に希望に応じたガイダンスを実施。アクティブ・ラーニングへの糸口となることを期待している。 4. Facebook の活用で、図書館ホームページの閲覧が増加している。学生の関心を高め、自主的学習の場としての図書館活用を支援していきたい。 5. 各学科・科・研究科の委員を通じて、利用頻度調査結果に基づく継続購読の見直しを行い、洋雑誌についてはほとんどが電子ジャーナルに切り替えられた。研究室からでも、時間的制約を受けることなく閲覧やプリントアウトができる。エルゼビア社の購読価格規模維持という理不尽な制度については、JUSTICEなどのコンソーシアムを通じて改善のための働きかけを行っている。 6～9. 計画のとおり実施ないしは他部署と連携して次年度実施計画に盛り込んだ。
次年度への課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 機関リポジトリの運用：収録コンテンツの整備計画策定と実施 2. アクティブ・ラーニングを支援する文献検索ガイダンスの実施 3. 図書館ホームページの維持管理と Facebook 機能の活用 4. 洋雑誌の利用頻度調査結果に基づく見直しと電子ジャーナルへの切り替え 5. 将来構想等への新館建築素案の提示(情報処理室を含む) 6. 登録図書の計画的除籍及び廃棄(譲渡)と移管研究費図書の再活用の実施 7. 防災対策と必要備品等の準備(情報処理室を含む) 8. 北海道地区私立大学図書館協議会幹事館としての活動(研究会開催など)
自己点検 評価委員会 からの評価	<p>活動目標に基づき適切に実施していることを評価します。また、機関リポジトリの愛称募集や Facebook の活用など、学生の関心を高める取り組みも評価できます。次年度は、アクティブ・ラーニングを支援する文献検索ガイダンスの実施など、学生の学ぶ力を高める図書館サービスの充実を期待します。</p>

X. 情報処理システム

担 当：図書情報委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. サーバシステム、学内 LAN ネットワーク、無線 LAN 環境の整備・維持管理 2. 図書館の貸出サービス用パソコンの維持管理と栄養君等のインストール 3. Web フィルタリングサーバの更新 4. 情報処理室(4301・4302)フロアカーペット張り替え 5. 情報処理事務室のパソコン入れ替えおよびエアコン設置 6. 情報処理室授業支援システムの利用促進 7. 遠隔地実習支援のための会議システム Live On の利用案内 8. 大学ホームページ内に情報処理室ページ作成及び利用マニュアル等の改訂 9. 学内 LAN 掲示板の充実と利用促進 10. 情報処理室夜間アルバイト 2 名体制の継続及び平日閉室時刻 21 時まで延長 11. 情報セキュリティに関する情報収集と対策(規程整備など)
<p>活動内容の評価</p>	<p>1～8：計画のとおり、すべて実施した。特筆すべき事項は以下のとおり。</p> <p>2. 図書館貸出用ノートパソコンは、情報処理室が使用できない土日祝日に利用できないため、稼働率は極めて高い。次年度は使用時間に対応可能なバッテリーを導入。</p> <p>7. 会議システム Live On の導入により、助産の実習並びに教授会は遠隔地と結んで行われ、順調に推移している、 今年度はさらに科研費獲得のための講習会を九州の久留米と結んで実施し、出張困難な講師による講習会開催を実現した。録画 CD の貸出で欠席者にも対応した点は高く評価できる。</p> <p>9. 学内 LAN 掲示板の充実については、各研究室および事務室から教室の使用予約ができる方法を局課長会議に提案したが、実施には至らなかった。今後も創意工夫し、学内のコンセンサスを得て、利用促進を図ることに務めたい。 常務理事から指示のあったデジエによる業務分析用の勤務時間集計票については数か月試行したが、事務分掌に基づく集計コードでは分析用データが得られないことから、局課室長会議で検討の結果、導入を取り止めた。</p> <p>10. 情報処理室内は機器のトラブルを回避するため、飲食厳禁としている。しかし、飲食者は絶えずおり、利用者としてのマナーに欠けている学生が多い。次年度に向け、対策を講ずることとしたい。</p> <p>11. 情報セキュリティに関する講習等については毎年参加して情報収集をしており、対応の遅れがないよう配慮している。</p> <p>12. 助産研究科院生室のパソコン入れ替え、セキュリティ等の管理を行っている。</p> <p>13. 助産研究科院生の遠隔地での実習にあたっては、ノートパソコンやプリンターの貸出を行っている。</p> <p>14. 助産研究科教授会では、TV会議システムの通常活用を行っている。</p>
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. サーバシステム、学内 LAN、無線 LAN 環境、図書館貸出パソコンの整備・維持管理 2. 情報処理室授業支援システム、学内 LAN 掲示板の利用促進 3. 遠隔地実習や講習会実施を支援するための Live On システムの活用 4. 情報セキュリティに関する情報収集と対策(規程整備など) 5. 事務局内のシステム導入に対応するため、サーバー等の整備を並行して実施
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>出用ノートパソコンの維持管理、会議システム Live on の活用等、利用者の利便性向上の取り組みを評価します。次年度は引き続き利便性向上に取り組むとともに、情報セキュリティに関する体制の強化を期待します。</p>

XI. 施設・設備

担当：財務室

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 校舎内のバリアフリー対策 2. 光熱水費の単価の値上げに伴う更なる省エネ化 3. 6号館を中心とした施設設備の点検・修繕 4. 中長期計画に伴う新校舎建築計画の立案
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2014年度は認証評価機構から指摘のあった校舎内のバリアフリー化について対応し、正面玄関の段差解消や3号館と4号館の渡り廊下の段差解消工事を行った。また、2013年度も新校舎建設へ向けて第2号基本金組入れ計画表に基づき第2号基本金引当特定預金への積み立ても計画通り行った。 2. 学生からの要望により休日の暖房運転の延長を行いました。ガス単価が高騰しており、契約内容を変更しながらこまめに使用量を調整したり、休日の自習可能教室を制限することにより光熱水費の上昇を抑えることができた。 3. 今年度、6号館が建築後15年経過することから、学生玄関のシャッター、自動ドア、エレベーター設備等の部品交換・修繕を行った。また、学内の内線電話設備も電話回線に余裕が無くなってきたため、更新工事を行いました。 4. 中長期財務計画および新校舎建築計画については、今年度も策定することができず、2015年度への継続検討課題となっている。
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中長期計画に伴う新校舎建築計画の立案
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>昨年度の指摘した図書館収蔵スペース、ゼミ室、教室の狭隘化の問題を踏まえ、2号基金組入れと新校舎建設計画の検討状況を示し、中長期的な計画を具体的方策で示してください。</p>

XII. 管理運営

担 当：事務局長

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. 「教育研究評議会」、「教授会」および「研究科委員会」などを定期的で開催し、学長のリーダーシップのもとに組織的な教学運営を行う。</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. 教育研究評議会、教授会及び研究科委員会を定期的で開催し、教学事項を審議検討した。 教育研究評議会については、2014年度は毎月開催し、学科、科、研究科、委員会の課題等を検討し、共有に努めた。また、案件によっては書面会議として円滑な運用を図った。 教授会等の審議報告事項については、学園運営連絡会において報告され学園全体として共通理解に努めている。</p> <p>2. 教育研究評議会にカリキュラム検討委員会、大学院課程等増設検討委員会を設置し、カリキュラムの検討や2016年度に看護学専攻保健師課程保健師コースの変更承認申請を準備するなど、横断的な検討を行った</p>
<p>次年度への課題</p>	<p>1. 「教育研究評議会」、「教授会」および「研究科委員会」などを定期的で開催し、学長のリーダーシップのもとに組織的な教学運営を行う。</p> <p>2. 学長のリーダーシップが発揮できる支援体制を整える。</p>
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>昨年度指摘した点での評価内容となっておりませんので、昨年度もコメントしましたが、大学基準協会の点検評価項目を参考に適切に評価を行ってください。</p>

XIII. 財務

担当：財務室

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 継続的な受験者数、入学者数の確保（特に大学院入学者） 2. 外部資金の確保（補助金収入、事業収入等） 3. 教育研究経費の効率的な予算配分（教育研究経費比率の上昇）
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2014 年度の受験申込者総数は 848 名と前年度 878 名から 30 名減少した。内訳は看護栄養学研究科 3 名（前年度 8 名）、助産研究科 27 名（同 38 名）、看護学科 508 名（同 580 名）、栄養学科 299 名（同 252 名）となった。入学予定者については、210 名と入学定員（225 名）を下回ったが、継続的に確保できているため、在籍者総数も 828 名（2014 年 5 月現在）と定員 806 名を上回っている。このため学生生徒等納付金や前受金は安定的に確保できており、財務比率は比較的健全である。 2. 国庫補助金収入については、経常費補助金（一般補助）で 13,881 千円減少し、経常費補助金（特別補助）も 10,112 千円減少したので 200,650 千円と前年度（224,643 千円）より 23,993 千円減少した。事業収入も 13,257 千円と前年度（14,027 千円）により 770 千円減少した。今後は大学全体で経常費補助金を確保していかなければ、収入の増加は見込めない。 3. 教育研究経費比率については、2014 年度は 25.5%となり、全国の保健系学部 の平均（29.6%）と比較すると若干低くなっている。教育研究経費については教員の質的向上のため教育・研究の環境を整備し、効率的予算配分に努めることとする。
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 継続的な受験者数、入学者数の確保（特に大学院入学者） 2. 経常費補助金の確保 3. 教育研究経費の効率的な予算配分（教育研究経費比率の上昇）
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>評価内容は昨年度と数字を置き換えているのみで記述内容に変化が見られていませんので、昨年度もコメントしましたが、大学基準協会点検評価項目を参考に適切に評価を行ってください。</p>

XIV. 事務組織

担 当：事務局長

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. 大学運営の効率的で機能的な支援を行うため事務局体制の見直しを検討する。 2. 事務局組織のレベルアップのため、専任職員の研修参加はもとより、同種の業務を行う嘱託職員についても研修の機会の充実を図る。</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. 事務局組織については、これまでの3課体制から3課（総務課、学務課、図書情報課）2室（財務室・入試広報室）体制として2013年8月に機構改正を行い、職務と責任の範囲を明確にした。 学務課の体制については教務担当、学生担当、就職担当の組織のあり方と、入試広報室の室長の兼任については、今後の人事状況等も勘案しながら検討を進めることとしている。 学務課の教務担当については、新採用の選任職員2名と臨時職員1名を配置したが、その内新採用専任職員1名と臨時職員1名が中途退職したため、派遣職員を配置した。 各課・室の効率的な業務運営を進めるため業務分析を行うこととし、次年度において日計表、業務日誌などを電子処理化し、分析するための準備として業務量のデータ収集を行ったところであるが、業務内容の分析には検討する余地があることから、継続して手段方法を検討することとした。 2. 事務職員の資質の向上のため、事務局全体研修として8月28日にSD研修会を実施し、教職員修養会を12月8日に実施したほか、日本私立大学協会等が開催する各種研修会に職員を参加させ、その際、嘱託職員についても外部研修として各種会議、研修に積極的に参加させ、事務局全体のレベルアップに努めた。</p>
<p>次年度への課題</p>	<p>1. 大学運営の効率的で機能的な支援を行うための事務局体制の見直しを検討する。 2. 事務局組織のレベルアップのため、専任職員・嘱託職員を積極的に各種会議・研修会に参加させるなど研修機会の充実を図る。</p>
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>次年度の課題が昨年と同様です。大学基準協会点検評価項目を参考に適切に評価を行い、次年度への課題は具体的に示してください。</p>

XV. 自己点検・評価活動

担当： 自己点検評価委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学における自己点検活動のあり方継続的検討 2. 認証評価結果の課題に対する全学的進捗状況の確認 3. 2013 年度年報作成および活動報告会の実施と評価
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内部質保証を目指した自己点検活動を検討し、教育研究評議会へ今後のあり方について提案を行った（2015 年 3 月）。その内容は、年報などによる評価をもとに大学における課題を明確にして、課題の改善へとつなげる全学的な自己点検評価システムを目指すものである。今後は、教育研究評議会で速やかに検討され 2015 年度は全学的評価活動の展開を目指すことになった。 2. 2011 年度大学評価の課題については、各委員会に改善の進捗状況を確認し年度末には 2015 年度 7 月の報告の準備がほぼ整った。カリキュラム等の努力課題は継続的に関係機関で検討中である。 3. 2013 年度年報作成 看護栄養学部の 2013 年度版は昨年度よりは早くほぼ予定通り前期には発刊した（7 月）。助産研究科の年報は 2012 年度、2013 年度の 2 年分を今年度発刊した。 2013 年度年報作成にあたり継続的に以下の点を意識するものとした。①目標、内容は特に年度で焦点化したものを明確にする。②活動内容と評価は数値化されるデータ等は具体的に示し分析・評価を明確にする。③ 次年度の改善策は具体的に示す。 4. 年度末報告会の実施（3 月 23 日） 学内全体での課題の共有と各委員会の連携などをめざし年度末に実施した。報告会は昨年度までの反省を基に委員長的全プログラムへの参加を依頼し、昨年に比べ参加者は多かった。運営は時間配分を改善し昨年より短時間で効率的に進めた。 5. 助産研究科の認証評価 課題については、当該部署にて継続的に検討中だが、一部回答したものもある。継続的検討を進める。 <p>以上、自己点検活動は年度末報告会の開催などを通して全学的な取り組み、PDCA サイクルとなる取り組みのための努力段階といえる。</p>
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内部質保証を目指した大学の自己点検活動の展開 2. 前回認証評価における課題の確認と提出 3. 年報の作成および報告会の実施（PDCA サイクルとなるものを目指す）
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>自己点検・評価結果を教育研究評議会へ報告して課題の共有を目指しました。さらに課題解決のための PDCA サイクルにおける「Act」に係る本学のシステムを構築していきたいと考えています。（学長）</p>

自己点検・評価資料

目 次

I. 学事歴	21
II. 2014年度開講科目一覧	23
III. 学生数・奨学金の採用状況	25
IV. 国家試験合格率	26
V. 就職・進学状況	27
VI. 2015年度入学試験結果	29
VII. 教員組織	30
VIII. 事務組織	31
IX. 研究等の活動	32
X. 組織図	35
XI. 会議の開催状況	36
XII. 委員会構成一覧	39
XIII. 委員会の活動報告	40
XIV. 図書館の利用状況	50
XV. 施設・設備の状況	51
XVI. 財務状況	53

I. 2014年度 学事曆 (助産研究科)

【前期】

							行事予定等							
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
			1	2	3	4	5							2日(水) : 13:00 入学式・新入生オリエンテーション 3日(木) 新入生オリエンテーション・2年次ガイダンス 4日(金) 新入生修養会 5日(土) 定期健康診断
4月	6	7	8	9	10	11	12							
	13	14	15	16	17	18	19							
	20	21	22	23	24	25	26							23日(水)午前 始業ミサ、イースターの集い
	27	28	29	30										
					1	2	3							
5月	4	5	6	7	8	9	10							12日(月) 基礎2年 : 「マタニティイカル独立助産実習」開始(前半グループ) 14日(水)午後 合唱コンクール
	11	12	13	14	15	16	17							
	18	19	20	21	22	23	24							
	25	26	27	28	29	30	31							
6月	1	2	3	4	5	6	7							16日(月) 基礎1年 : 「マタニティイカル助産学基礎実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」開始 16日(月) 教育1年 : 「マタニティイカル助産学統合実習」開始 16日(月) 教育2年 : 「臨床助産教育実習」開始 20日(金) 基礎2年 : 「マタニティイカル独立助産実習」終了(前半グループ) 30日(月) 基礎2年 : 「マタニティイカル独立助産実習」開始(後半グループ)
	8	9	10	11	12	13	14							
	15	16	17	18	19	20	21							
	22	23	24	25	26	27	28							
	29	30												
7月														
	6	7	8	9	10	11	12							
	13	14	15	16	17	18	19							
	20	21	22	23	24	25	26							
	27	28	29	30	31									
8月														8日(金) 基礎2年 : 「マタニティイカル独立助産実習」終了(後半グループ) 15日(金) 基礎1年 : 「マタニティイカル助産学基礎実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」終了 15日(金) 教育1年 : 「マタニティイカル助産学統合実習」終了 15日(金) 教育2年 : 「臨床助産教育実習」終了 25日(月)～29日(金) 基礎1・2年、教育1年 : 補講期間・前期定期試験
	3	4	5	6	7	8	9							
	10	11	12	13	14	15	16							
	17	18	19	20	21	22	23							
	24	25	26	27	28	29	30							
9月	31	1	2	3	4	5	6							1日(月) 夏期休暇開始
	7	8	9	10	11	12	13							
	14	15	16	17	18	19	20							
	21	22	23	24	25	26	27							26日(金) 夏期休暇終了 26日(金) 教育2年 : 修了、学位記授与
	28	29	30											

I. 2014年度 学事曆 (助産研究科)

【後期】

							行事予定等						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	9月29日(月)	基礎2年：「マタニティイクル助産学総合実習Ⅱ」開始(第1グループ)					
5	6	7	8	9	10	11	10日(金)	基礎2年：「マタニティイクル助産学総合実習Ⅱ」終了(第1グループ)					
12	13	14	15	16	17	18	14日(火)	基礎2年：「マタニティイクル助産学総合実習Ⅱ」開始(第2グループ)					
19	20	21	22	23	24	25	24日(金)	基礎2年：「マタニティイクル助産学総合実習Ⅱ」終了(第2グループ)					
26	27	28	29	30	31		27日(月)	基礎2年：「マタニティイクル助産学総合実習Ⅱ」開始(第3グループ)					
						1	7日(金)	基礎2年：「マタニティイクル助産学総合実習Ⅱ」終了(第3グループ)					
2	3	4	5	6	7	8	4日(火)~7日(金)	基礎1年：演習、実習リエンション					
9	10	11	12	13	14	15	10日(月)	基礎1年：「マタニティイクル助産学総合実習Ⅰ」開始					
16	17	18	19	20	21	22							
23	24	25	26	27	28	29							
30													
	1	2	3	4	5	6	8日(月)	創立記念日					
7	8	9	10	11	12	13	9日(火)~12日(金)	教育1年：演習、実習リエンション					
14	15	16	17	18	19	20	15日(月)	教育1年：「マタニティイクル独立助産実習」開始					
21	22	23	24	25	26	27	16日(火)午後	学生クリスマス集い					
28	29	30	31				25日(木)	クリスマス降誕祭					
							29日(月)	基礎1・2年：冬期休暇開始					
				1	2	3	9日(金)	基礎1・2年：冬期休暇終了					
4	5	6	7	8	9	10							
11	12	13	14	15	16	17	23日(金)	教育1年：「マタニティイクル独立助産実習」終了					
18	19	20	21	22	23	24							
25	26	27	28	29	30	31							
1	2	3	4	5	6	7	2日(月)	教育1年：冬期休暇開始					
8	9	10	11	12	13	14	13日(金)	教育1年：冬期休暇終了					
15	16	17	18	19	20	21	13日(金)	基礎1年：「マタニティイクル助産学総合実習Ⅰ」終了					
22	23	24	25	26	27	28							
1	2	3	4	5	6	7	6日(金)	修了前修養会					
8	9	10	11	12	13	14	12日(木)	修了・卒業感謝のミサ					
15	16	17	18	19	20	21	13日(金)10:00~	修了証書・学位記授与式					
22	23	24	25	26	27	28							
29	30	31											

II. 2014年度開講科目一覧

【助産基礎分野】

区分	授業科目	学年	学期	単位数		授業区分			履修方法及び修了要件
				必修	選択	講義	演習	実習	
基礎科目	概念形成	助産学概論	1	前	1		1		
		助産哲学・倫理Ⅰ	1	後	1		1		
		助産哲学・倫理Ⅱ	2	後		1	1		
		出産の文化	1	前	1		1		
	専門基礎	女性のフィジカルイグザミネーション	1	前	1			1	
		助産薬理学Ⅰ	1	前	1		1		
		助産薬理学Ⅱ	2	前	1		1		
		妊娠褥婦乳幼児の栄養	1	前	1		1		
		助産女性学	1	前	1		1		
		助産カウンセリング	1	後	1			1	
		健康教育論Ⅰ	1	前	1		1		
		健康教育論Ⅱ	2	前	1			1	
	助産機能	助産管理論Ⅰ	1	後	1		1		
		助産管理論Ⅱ	2	前	1		1		
		助産師教育論	2	前	1		1		
		助産師教育方法論	2	後		1	1		
		母子保健行政・財政論	1	後	1		1		
		母子保健活動論（疫学・統計を含む）	2	前	1		1		
	実践専門科目	マタニティサイクル助産ケア	マタニティサイクル助産ケアⅠ	1	通年	2		1	1
マタニティサイクル助産ケアⅡ			1	通年	2		1	1	
マタニティサイクル助産ケアⅢ			1	通年	2		1	1	
ハイリスク助産学Ⅰ			1	後	1		1		
ハイリスク助産学Ⅱ			1	後	1		1		
ハイリスク助産演習			2	前	1			1	
独立助産実践概論			2	前	1		1		
独立助産演習		2	前	1			1		
マタニティサイクル助産ケア実践		マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅰ	1	前	2				2
		マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅱ	1	前	2				2
		マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅲ	1	前	2				2
		マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅰ	1	後	6				6
		マタニティサイクル独立助産実習	2	前	6				6
		マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅱ	2	後	2				2
発展・展開科目	発展・展開	子育て支援論Ⅰ	1	後	1		1		
		子育て支援論Ⅱ	2	前後	①	1		1	
		子育て支援論演習	2	後		1		1	
		性教育Ⅰ	2	前	1		1		
		性教育Ⅱ	2	前後	②	1		1	
		性教育実習	2	後		1			1
		ウィメンズヘルスⅠ	1	後	1		1		
		ウィメンズヘルスⅡ	2	前後	③	1		1	
		ウィメンズヘルス演習	2	後		1		1	
		国際助産学Ⅰ	2	前	1		1		
		国際助産学Ⅱ	2	前後	④	1		1	
国際助産学実習	2	後		2			2		
特別統合研究科目	特別統合課題研究	2	通年	1			1		
合計				53	11	26	15	23	

修了要件は、選択科目3単位以上を含む56単位を修得すること。なお、選択科目は、①から④のいずれかの領域の単位を必ず修得し、かつ①、②、③の領域を選択した場合は、

【助産教育分野】

区分	授 業 科 目	学年	学期	単位数		授業区分			履修方法及び修了要件	
				必修	選択	講義	演習	実習		
基礎科目	概念形成	助産学概論	1	前	1		1			単位付与対象科目
		助産哲学・倫理Ⅰ	1	後	1		1			
		助産哲学・倫理Ⅱ	1	後		1	1			
		出産の文化	1	前	1		1			
	専門基礎	女性のフィジカルイグザミネーション	1	前		1		1		
		助産薬理学Ⅰ	1	前	1		1			
		助産薬理学Ⅱ	2	前	1		1			
		妊産褥婦乳幼児の栄養	1	前	1		1			
		助産女性学	1	前	1		1			
		助産カウンセリング	1	後		1		1		
		健康教育論Ⅰ	1	前	1		1			
		健康教育論Ⅱ	2	前	1			1		
	助産機能	助産管理法Ⅰ	1	後		1	1			
		助産管理法Ⅱ	1	前	1		1			
母子保健行政・財政論		1	後		1	1				
母子保健活動論（疫学・統計を含む）		2	前		1	1				
実践専門科目	マタニティサイクル助産ケア	マタニティサイクル助産ケアⅠ	1	通年	2		1	1		単位付与対象科目
		マタニティサイクル助産ケアⅡ	1	通年	2		1	1		単位付与対象科目
		マタニティサイクル助産ケアⅢ	1	通年	2		1	1		単位付与対象科目
		ハイリスク助産学Ⅰ	1	後		1	1			
		ハイリスク助産学Ⅱ	1	後		1	1			
		独立助産実践概論	1	前	1		1			
		独立助産演習	1	前	1			1		
	マタニティサイクル助産ケア実践	マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅰ	1	前	2				2	単位付与対象科目
		マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅱ	1	前	2				2	単位付与対象科目
		マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅲ	1	前	2				2	単位付与対象科目
		マタニティサイクル助産ケア統合実習	1	後	6				6	単位付与対象科目
マタニティサイクル独立助産実習		1	後	6				6		
発展・展開科目	発展・展開	子育て支援論	1	後		1	1			
		性教育	1	前		1	1			
		ウィメンズヘルス	1	後		1	1			
		国際助産学	1	前		1	1			
	助産・看護教育	教育概論	1	後	2		2			
		教育計画(カリキュラム)の原理と展開	1	後	3		2	1		
		教授学習法の理論と展開	1	後	3		2	1		
		教育評価	1	後	3		2	1		
		教育機関の運営と評価	1	後	2		2			
		助産教育実習	2	前	2			1	1	
		臨床助産教育実習	2	前	2			1	1	
	特別統合研究科目	助産教育課題研究	2	前	2			2		
	合 計				55	13	34	14	20	

Ⅲ. 学生数・奨学金の採用状況

在籍者数

(2014年5月1日現在)

所属	学科・専攻	コース名等	収容定員	1年	2年	3年	4年	計	収容定員充足率
看護栄養学部	看護学科		348	94 (2)	98 (3)	96 (7)	100 (4)	388 (16)	111.5%
	栄養学科		350	88 (2)	87 (0)	99 (0)	93 (2)	367 (4)	104.9%
		(うち編入生)	10	—	—	3 (0)	6 (0)	9 (0)	90.0%
	小 計			698	182 (4)	185 (3)	195 (7)	193 (6)	755 (20)
助産大学院 助産研究科	助産専攻	助産基礎分野	60	23 —	23 —	— —	— —	46 —	76.7%
		助産教育分野	20	4 —	4 —	— —	— —	8 —	40.0%
	小 計			80	27 —	27 —	— —	54 —	67.5%
看護大学院 看護学専攻 栄養管理学専攻	看護学専攻	ホスピス・緩和ケア看護学コース	16	0 (0)	3 (0)	— —	— —	3 (0)	62.5%
		公衆衛生看護学コース		2 (1)	4 (0)	— —	— —	6 (1)	
		成人看護学コース		1 (0)	— —	— —	— —	1 (0)	
		精神看護学コース		0 (0)	0 (0)	— —	— —	0 (0)	
	栄養管理学専攻	博士前期課程	6	2 (0)	5 (0)	— —	— —	7 (0)	116.7%
		博士後期課程	6	1 (0)	1 (0)	0 (0)	— —	2 (0)	33.3%
	小 計			28	6 (1)	13 (0)	0 (0)	— —	19 (1)
合 計			806	215 (5)	225 (3)	195 (7)	193 (6)	828 (20)	102.7%

社会人学生数

(2014年5月1日現在)

所属	学 科	1年	2年	3年	4年	計
看護栄養学部	看護学科	5 (1)	8 (0)	5 (0)	5 (0)	23 (1)
	栄養学科	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)
	小 計		5 (1)	8 (0)	6 (0)	5 (0)

奨学金の種類と採用数

奨学金の種類		奨学金の金額		貸与・給付の別	採用数
天使大学貸与奨学金		月 額	30,000円 50,000円	無利子貸与	4人
天使大学同窓会奨学金		年 額	300,000円	無利子貸与	0人
日本学生支援機構奨学金	第一種	月 額	50,000円 88,000円	無利子貸与	8人
	第二種 (月額選択)	月 額	50,000円、80,000円 100,000円、130,000円 150,000円	有利子貸与 利率変動3%以内	9人
北海道看護職員養成修学資金		月 額	32,000円	道内助産師として5年以上勤務の場合返還免除	7人
日本助産師会奨学金		月 額	50,000円	無利子貸与	1人
合 計					29人

IV. 国家試験合格率

国家試験合格率

学 部・学 科	国家試験の名称	受験者数 (A)	合格者数 (B)	合格率 (%) B/A*100	全国合格率 (%)
天使大学大学院 助産研究科	助産師国家試験	20 人	20 人	100.00%	99.90%
看護栄養学部 看護学科	看護師国家試験	96 人	95 人	99.00%	95.50%
看護栄養学部 看護学科	保健師国家試験	95 人	95 人	100.00%	99.60%
看護栄養学部 栄養学科	管理栄養士国家試験	90 人	84 人	93.30%	95.40%

V. 就職・進学状況

〔就職希望者〕

分野		助産基礎分野	助産教育分野	計	卒業者に対する割合
就職希望の有無	希望有りの者	20	3	23	95.8%
	希望無しの方	0	1	1	4.2%
計(修了者数)		20	4	24	100.0%

〔就職決定者〕

分野		助産基礎分野	助産教育分野	計	卒業者に対する割合
決定数/決定率		20	3	23	100.0%

〔地域別・就職別決定者〕

分野		助産基礎分野	助産教育分野	計	卒業者に対する割合
地域別	道外	8	1	9	39.1%
	道内	12	2	14	60.9%
	市内(再掲)	(8)	(2)	(10)	(71.4%)
職種別	助産師	20	0	20	87.0%
	教員	0	3	3	13.0%
	上記以外	0	0	0	0.0%

2014年度求人件数・人数（2015年3月13日現在）

〔看護職〕

職 種	件 数					人 数				
	(市内)	道内	道外	全国	件数合計	(市内)	道内	道外	全国	人数合計
看護師	40	78	176	0	254	671	1,500	9,819	0	9,819
保健師	6	33	26	0	59	24	210	84	0	294
助産師	8	30	151	0	181	29	102	820	0	922
計	54	141	353	0	494	724	1,812	10,723	0	11,035

〔栄養士職〕

職 種	件 数					人 数				
	(市内)	道内	道外	全国	件数合計	(市内)	道内	道外	全国	人数合計
栄養士	19	40	8	0	48	30	253	82	0	335
管理栄養士	33	97	18	0	148	42	150	106	0	256
栄養教諭	1	1	0	0	1	3	3	0	0	3
計	53	138	26	0	197	75	406	188	0	594

〔一般職・その他〕

職 種	件 数					人 数				
	(市内)	道内	道外	全国	件数合計	(市内)	道内	道外	全国	人数合計
一般	33	76	89	0	198	636	1,484	5,613	0	7,733

合計	86	214	115	0	395	711	1,890	5,801	0	8,327
----	----	-----	-----	---	-----	-----	-------	-------	---	-------

注1 (市内)は道内の内数

注2 道内+道外+全国=合計

注3 全国は勤務先が道内・道外に限定されない場合

注4 若干名は3とカウントする

注5 保健師・助産師求人数は人数を明記してある場合以外は3とカウントする

VI. 2015年度入試結果

2015年度天使大学・大学院入学試験結果

看護栄養学部

* () は、昨年度の数字です

◆看護学科

試験種別	定員(名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率(受/合)
指定校推薦	40	7	(6)	7	(6)	7	(6)	7	(6)	1.0
公募制推薦		52	(63)	52	(63)	35	(34)	35	(34)	1.5
社会人	37	9	(14)	9	(14)	1	(4)	1	(3)	9.0
一般		281	(318)	277	(301)	72	(67)	39	(33)	3.8
センター利用	10	154	(179)	154	(179)	28	(35)	11	(17)	5.5
総計	87	503	(580)	499	(563)	143	(146)	93	(93)	3.5

◆栄養学科

試験種別	定員(名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率(受/合)
指定校推薦	42	4	(4)	4	(4)	4	(4)	4	(4)	1.0
公募制推薦		60	(56)	60	(56)	38	(39)	38	(38)	1.6
社会人	33	2	(2)	2	(2)	2	(1)	2	(1)	1.0
一般		123	(108)	121	(107)	42	(36)	30	(29)	2.9
センター利用	10	110	(78)	110	(78)	18	(18)	11	(15)	6.1
総計	85	299	(248)	297	(247)	104	(98)	85	(87)	2.9

◆栄養学科(3年次編入)

試験種別	定員(名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率(受/合)
	5	11	(4)	11	(4)	5	(3)	4	(3)	2.2

大学院 看護栄養学研究科

◆看護学専攻

試験種別	定員(名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率(受/合)
前期	8	2	(3)	1	(3)	1	(2)	1	(2)	1.0
後期		1	(1)	1	(1)	1	(1)	1	(1)	1.0
総計	8	3	(4)	2	(4)	2	(3)	2	(3)	1.0

◆栄養管理学専攻 博士前期課程

試験種別	定員(名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率(受/合)
前期	3	1	(3)	1	(3)	1	(3)	1	(2)	1.0
後期		2	(0)	2	(0)	2	(0)	2	(0)	1.0
総計	3	3	(3)	3	(3)	3	(3)	3	(2)	1.0

◆栄養管理学専攻 博士後期課程

試験種別	定員(名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率(受/合)
前期	2	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	—
後期		2	(1)	2	(1)	1	(1)	1	(1)	2.0
総計	2	2	(1)	2	(1)	1	(1)	1	(1)	2.0

大学院 助産研究科

試験種別	定員(名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率(受/合)	
基礎分野	推薦	10	11	(10)	11	(10)	11	(10)	11	(10)	1.0
	前期一般	15	4	(11)	4	(10)	3	(7)	2	(7)	1.3
	前期社会人		4	(8)	4	(8)	3	(5)	3	(5)	1.3
	後期一般	5	4	(4)	4	(3)	2	(1)	2	(1)	2.0
	後期社会人		3	(0)	3	(0)	3	(0)	3	(0)	1.0
分教 分野育	前期	10	1	(2)	1	(2)	1	(2)	1	(2)	1.0
	後期		0	(3)	0	(3)	0	(2)	0	(2)	—
総計	40	27	(38)	27	(36)	23	(27)	22	(27)	1.2	

VII. 教員組織

教員組織一覽

(2014年5月1日現在)

所 属		教授	准教授	講師	助教	助手	計
大学院	助産研究科	8人	1人	0人	2人	1人	12人
	兼任教員(非常勤講師)	—	—	—	—	—	28人
看護栄養学部	看護学科	8人	4人	7人	5人	5人	29人
	栄養学科	9人	5人	5人	3人	4人	26人
	教養教育科	2人	4人	1人	0人	0人	7人
	計	19人	13人	13人	8人	9人	62人
	兼任教員(非常勤講師)	—	—	—	—	—	90人
合計		27人	14人	13人	10人	10人	192人

専任教員年齢構成

(2014年5月1日現在)

所属	職位	71歳以上	66歳～70歳	61歳～65歳	56歳～60歳	51歳～55歳	46歳～50歳	41歳～45歳	36歳～40歳	31歳～35歳	26歳～30歳	計
助産研究科	教授	2	0	2	3	1	0	0	0	0	0	8
		25.0%	0.0%	25.0%	37.5%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	助教	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0
0.0%		0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
計	2	0	2	3	3	0	1	0	0	0	0	11
	18.2%	0.0%	18.2%	27.3%	27.3%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
助手	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
小計	2	0	2	3	3	0	1	1	0	0	0	12
	16.7%	0.0%	16.7%	25.0%	25.0%	0.0%	8.3%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
看護栄養学部・看護栄養学研究科	教授	0	6	6	4	2	1	0	0	0	0	19
		0.0%	31.6%	31.6%	21.1%	10.5%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	1	2	2	7	1	0	0	0	13
		0.0%	0.0%	7.7%	15.4%	15.4%	53.8%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	講師	0	0	0	1	2	5	3	2	0	0	13
		0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	15.4%	38.5%	23.1%	15.4%	0.0%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	0	0	0	3	3	2	0	8
0.0%		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	37.5%	37.5%	25.0%	0.0%	100%	
計	0	6	7	7	6	13	7	5	2	0	53	
	0.0%	11.3%	13.2%	13.2%	11.3%	24.5%	13.2%	9.4%	3.8%	0.0%	100%	
助手	0	0	0	0	0	0	2	1	2	4	9	
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%	11.1%	22.2%	44.4%	100%	
小計	0	6	7	7	6	13	9	6	4	4	62	
	0.0%	9.7%	11.3%	11.3%	9.7%	21.0%	14.5%	9.7%	6.5%	6.5%	100%	
合計	2	6	9	10	9	13	10	7	4	4	74	
	2.7%	8.1%	12.2%	13.5%	12.2%	17.6%	13.5%	9.5%	5.4%	5.4%	100%	

※定年：65歳

教員の任免・昇任者一覧

(2014年3月31日現在)

学科・科	採用者					昇任者		退職者				
	教授	准教授	講師	助教	助手	准教授から教授	助教から講師	教授	准教授	講師	助教	助手
助産研究科	1人	2人	0人	0人	1人	0人	0人	1人	0人	0人	2人	1人
看護学科	0人	0人	1人	1人	2人	0人	0人	2人	2人	2人	3人	0人
栄養学科	0人	0人	1人	0人	0人	0人	1人	3人	0人	1人	0人	0人
教養教育科	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
計	1人	2人	2人	1人	3人	0人	1人	6人	2人	3人	5人	1人

VIII. 事務組織

(2014年5月1日現在)

区分	部門	専任職員		常勤嘱託職員	臨時職員	派遣職員	その他	計
			うち管理職					
法人業務系	事務局長	1	1	0	0	0	0	1
	参与	0	0	1	0	0	0	1
		0	0	0	0	0	0	0
	計	1	1	1	0	0	0	2
大学業務系	総務課	3	1	0	4	0	0	7
	学務課	6	2	3	5	0	0	14
	図書情報課	4	1	3	0	0	0	7
	財務室	3	1	3	4	0	0	10
	入試・広報室	3	1	1	0	0	0	4
	計	19	6	10	13	0	0	42
合計		20	7	11	13	0	0	44

IX. 研究等の活動

独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業（代表者）の採択状況

	代表者名	研究課題名	種別
1	看護学科・准教授 針金佳代子	3歳児と母親が健康な食生活を形成していくための家族支援プログラムの開発	基盤C 継続採択
2	看護学科・教授 荃津 智子	小中学校教員の子どものグリーフに関する認識とグリーフケア	基盤C 継続採択
3	栄養学科・教授 佐藤 香苗	地域で暮らす認知症高齢者のための新規栄養ケアモデルの構築と応用可能性	基盤C 新規採択
4	看護学科・教授 吉田 礼維子	介護予防システムを推進する保健師の活動強化プログラムの検討	基盤C 新規採択

特別研究費の助成状況

	氏名	研究課題名
1	栄養学科・助教 松下 真美	香辛料などの食品成分によるヒト褐色脂肪組織の活性化と肥満予防
2	栄養学科・助教 長谷川めぐみ	Listeria monocytogenesのバイオフィーム形成能力および消毒薬に対する耐性
3	栄養学科・教授 賀来 亨	摂食回復支援食と通常食の組織学的検討
4	看護学科・准教授 草薙 美穂	若年の母親への育児支援－虐待予防のためのFeeding Education－
5	栄養学科・教授 大久保岩男	本学大学院で養成する高度専門職業人に共通するコンピテンシーの明確化～両専攻共通科目の提言に向けて～
6	看護学科・教授 新谷 恵子	学生に自らの知識を組み合わせそれを応用する練習をさせる教育技法の開発－(TBL:team-based learning)を活用した教育方法の検討－
7	栄養学科・教授 荒川 義人	北海道産マタタビおよびサルナシの果実に含まれるシステインプロテアーゼの構造および機能解析に関する研究
8	栄養学科・准教授 鈴木 純子	生活習慣病患者の概日リズム改善が安静時代謝量に及ぼす影響
9	看護学科・教授 荒井 春生	精神科病院における保護室の環境条件に関する検討
10	看護学科・准教授 大野 和美	神経難病患者の在宅療養への円滑な移行を可能とする熟練看護師の実践
11	栄養学科・講師 岡部 哲子	病院栄養士の給食経営管理業務にかかわる就業実態－管理栄養士養成施設の卒業生を対象とする実態調査－
12	栄養学科・教授 武蔵 学	スポーツ貧血の研究－マラソン後のIL-6とヘプシジンの増加
13	教養教育科・准教授 川口 雄一	統計処理統合システム利用環境の構築と利用手順の確立

受託研究等

	代表者名	研究課題名	種別
1	栄養学科・助手 松下 真美	ヒト褐色脂肪に対するカプシエイト類の効果に関する研究	奨学寄付
2	栄養学科・教授 大久保岩男	天使健康栄養クリニックにおける指導ツール開発に係る研究	共同研究
3	栄養学科・教授 大久保岩男	日本食によるストレス・脳機能改善効果の解明	共同研究
4	栄養学科・教授 大久保岩男	世界の健康に貢献する日本食の科学的・多面的検証	共同研究
5	栄養学科・助手 松下 真美	エネルギー代謝における個人内変動の要因として褐色脂肪の寄与の研究	共同研究
6	栄養学科・教授 佐藤 香苗	スポーツをしている児童生徒の栄養・生活教育の効果に関する研究	受託研究
7	栄養学科・助手 松下 真美	褐色脂肪組織活性と消化管ホルモンとの関連性評価検討	受託研究

FD・SDの実施状況

分類	日時	テーマ	内容
(FD 大学 研修会 全体)	2015年3月4日(水)	統合カリキュラム編成の実際	講師：札幌市立大学看護学部 教授 定廣 和香子氏
(FD 看護 栄養 学 研究 科)	2014年12月16日(火)	基礎(医学)実験計画法の知識と研究事例	講師：北海道大学大学院 農学研究院生命科学院 教授 有賀 早苗氏
	2015年2月18日(水)	質的研究方法論～現象学的アプローチ	講師：京都ノートルダム女子大学大学院 人間文化研究科 教授 村田 久行氏
SD 研修 会	2014年8月28日(木)	①中教審答申と教育の質的転換について ②2013年度事業報告について ③2013年度監事監査報告について ④業務分析について	①講師：鈴木 敏郎 学務課長補佐 ②講師：佐保 末男 事務局長 豊島 利昭 財務室長 ③講師：土産田 照夫 監事 ④講師：小川 泰 常務理事

公開講座の実施状況

日時	テーマ	内容
2012年8月21日（木） ） 2012年9月18日（木）	いのちみつめて	北海道薬科大学との連携事業。参加登録者は定員80名に対して118名、受講者の延べ人数は378名でした。

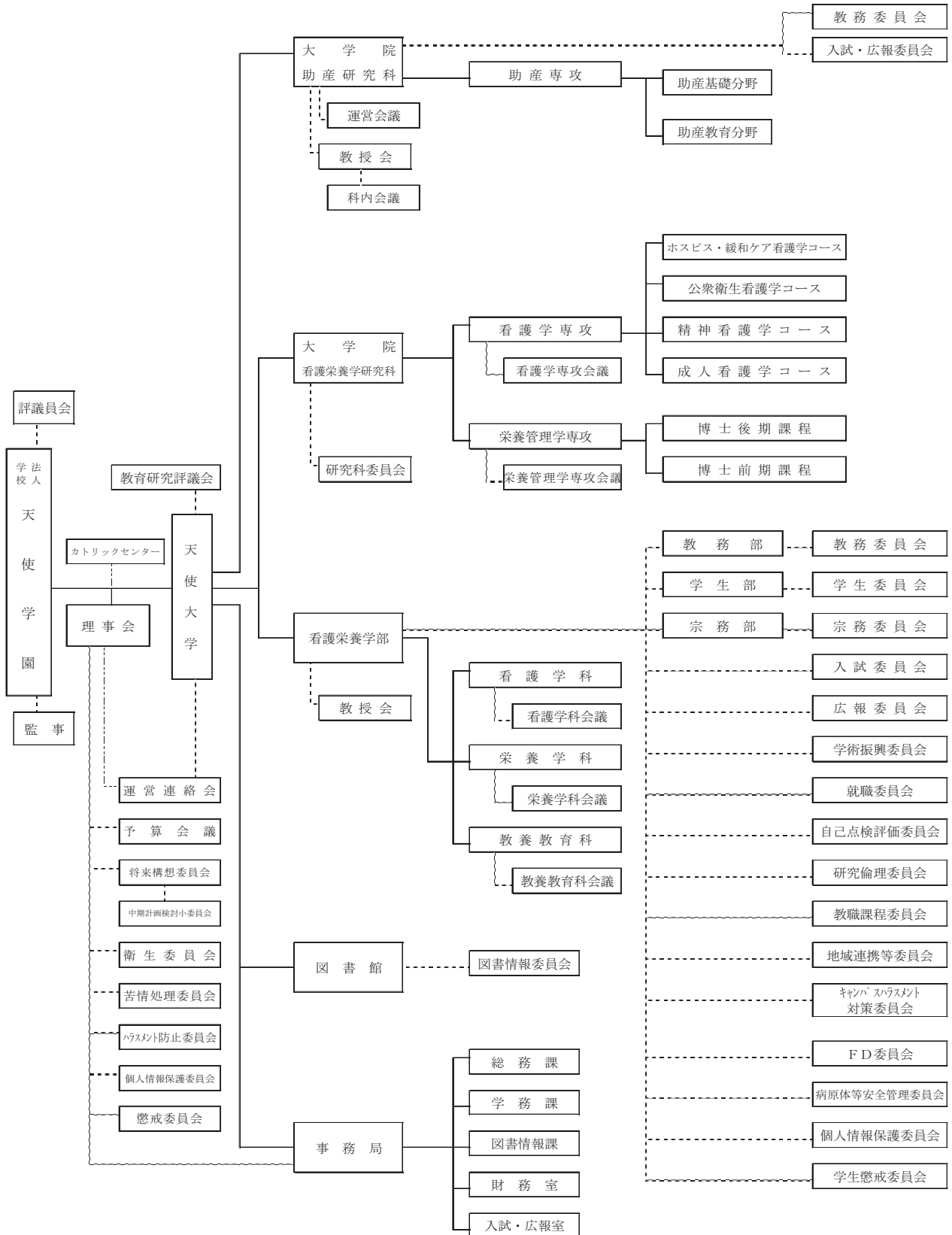
その他の活動

分類	活動内容
東日本大震災復興支援プロジェクト	① ボランティア活動支援 延べ10名の学生が長期休暇を利用して宮古市で傾聴ボランティアに携わりました。 ② 報告会の開催 2014年7月15日（火）と2015年1月13日（火）に、被災地にてボランティア活動に従事した学生の報告会を開催しました。 ③ 天使祭への出店 天使祭の一般公開日である2014年6月14日（土）に本プロジェクトのブースを設けて被災地の産物を販売し、東北の郷土料理である「せんべい汁」の販売も行いました。また、本プロジェクトの活動内容をまとめたリーフレットを作成し、会場のテーブルに設置しました。
札幌市東区保健福祉部・東区健康づくり連絡協議会との連携	「広報さっぽろ東区版及びホームページでのレシピの紹介」、「食育推進ネットワーク事業への参加」、「天使祭での健康相談・地域の健康づくり活動の紹介」、「たまねぎフェスタの運営協力」、「天使の昼食会」、「東区健康づくりフェスティバルの運営協力」など9事業に参加しました。
天使大学、札幌大谷大学、北海道体育大学校、札幌保健医療大学および札幌市東区による地域連携協定の締結	札幌市東区に設置する3大学と1専門学校および札幌市東区による地域連携協定に基づき、「健康」をテーマに地域住民向けの公開講座を次のとおり行いました。
コープさっぽろとの連携	産学連携プロジェクトとして、料理レシピの共同開発、食品表示検定試験の協力など、栄養学科の多数の学生および教員が協力を行っている。
天使大学後援会の教育講演会	2014年11月30日（土）に参加者94名を集め、本学6101講義室にて行いました。札幌医科大学医学部細胞生理学講座教授の當瀬規嗣氏が「低炭水化物ダイエットのウソホント」をテーマに行いました。

X. 組織図

学校法人天使学園 管理運営組織図 (2014年4月1日)

天使大学大学院 助産研究科
 天使大学大学院 看護栄養学研究科
 天使大学 看護栄養学部



XI. 会議の開催状況

助産研究科教授会

回	開催年月日	審議・報告事項
1	2014年4月9日（水）	<p>[審議事項]</p> <ol style="list-style-type: none"> 2014年度校務分掌・委員会構成について 2014年度非常勤講師の委嘱について 休学願の許可について 専任教員の採用に係る募集大綱について <p>[報告事項]</p> <ol style="list-style-type: none"> 2014年度助産研究科教授会の構成員及び教授会の成立要件の変更について 2014年度学園・大学事業計画及び当初予算について 2014年度合唱コンクール実施について 2014年度イースターのミサ及び御ミサの予定について 2014年度学校医・精神神経科医について コピー機の使用について
2	2014年5月12日（月）	<p>[審議事項]</p> <ol style="list-style-type: none"> 2015年度助産研究科学生募集要項について <p>[報告事項]</p> <ol style="list-style-type: none"> 2015年度大学院助産研究科入学試験日程について 2014年度助産研究科教授会の構成員について
3	2014年6月11日（水）	<p>[報告事項]</p> <ol style="list-style-type: none"> 2013年度学校法人天使学園・天使大学事業報告および会計収支決算について 2013年度学校法人天使学園監事監査報告について 将来構想について
4	2014年7月11日（金）	<p>[審議事項]</p> <ol style="list-style-type: none"> 専任教員の採用に係る募集大綱について <p>[報告事項]</p> <ol style="list-style-type: none"> 大学ポर्टレートに参加について 平成26年度私立大学等改革総合支援事業に係る調査について 学校法人運営調査委員による実地調査について 学内電話設備工事について 自衛消防訓練の実施について
5	2014年8月27日（水）	<p>[審議事項]</p> <ol style="list-style-type: none"> 退学願の許可について 2015年度助産研究科年次教育計画(案)について 専任教員の採用に係る募集大綱について <p>[報告事項]</p> <ol style="list-style-type: none"> 2014年度専任教員の新規担当科目について 人事方針について 学生玄関及び正門前歩道の工事について
6	2014年9月10日（水）	<p>[審議事項]</p> <ol style="list-style-type: none"> 休学願の許可について <p>[報告事項]</p> <ol style="list-style-type: none"> 2014年度キャンパス・ハラスメントに関する講演会の開催について 今後の宗務行事予定について 大学ポर्टレートについて 私立大学等改革総合支援事業について
7	2014年9月24日（水）	<p>[審議事項]</p> <ol style="list-style-type: none"> 2015年度助産基礎分野推薦入学試験の合否判定について 2014年度 助産教育分野の修了認定について 退学願の許可について <p>[報告事項]</p> <ol style="list-style-type: none"> 学校教育法及び国立大学法人法等の改正に関する実務説明会の報告 自衛消防訓練の日程について 国際助産学実習について 改正非常勤講師・専任教員の委嘱に関する申し合わせ事項について 映画上映と講演会の開催について
8	2014年10月8日（水）	<p>[審議事項]</p> <ol style="list-style-type: none"> 2016年度天使大学院助産研究科入学試験日程について 2014年度 助産教育分野における入学後の単位付与について 卒業証明書（和文・英文）の文面変更及び学位名称の英語表記の変更について <p>[報告事項]</p> <ol style="list-style-type: none"> 2015年度健康調査の実施について 看護栄養学部看護学科学学生の懲戒処分について 映画上映と講演会の開催について

回	開催年月日	審議・報告事項
9	2014年10月22日（水）	[審議事項] 1. 2015年度 助産基礎分野一般入学試験及び社会人入学試験並びに助産教育分野入学試験前期試験の可否判定について 2. 2014年度 非常勤講師の委嘱について [報告事項] 1. 映画上映と講演会の開催について
10	2014年11月19日（水）	[審議事項] 1. 2015年度 学時暦（案）について [報告事項] 1. 2014年 教職員修養会について 2. キャンパスハラスメントに関する講演会のアンケート結果について 3. 全国助産師教育協議会ファーストステージ研修生について
11	2014年12月10日（水）	[審議事項] 1. 学則の一部改正について 2. 2015年度非常勤講師の委嘱について 3. 助産研究科専任教員の採用に係る募集大綱について [報告事項] 1. 学内研究費の研究実績報告書の提出方法について 2. 教員の昇任手続きの開始について 3. 助産研究科嘱託教員の採用手続きについて
12	2015年1月28日（水）	[審議事項] 1. 2015年度助産基礎分野一般入学試験及び社会人入学試験後期試験の可否判定について 2. 2015年度非常勤講師の委嘱について 3. 学則の一部改正及び新規科目の英語名称の表記について [報告事項] 1. 2014年度年報の作成および活動報告会の開催について 2. 全国助産師教育協議会北海道東北ブロック研修会について 3. オレンジリボンキャンペーンについて 4. 理事会報告
13	2015年2月18日（水）	[審議事項] 1. 天使大学大学院 研究生期間延長願について 2. 復学願・退学願の許可について 3. 2015年度非常勤講師の委嘱について 4. 助産研究科学則の一部改正（案）について 5. 助産研究科教授会規程の一部改正（案）について [報告事項] 1. 2014年度卒業証書・学位記授与式実施要領（案）について 2. 2014年度FD研修会の開催について 3. 「天使大学における倫理審査のためのチェックリスト」について 4. 英文証明書の表記の一部変更について 5. 今後の行事予定について 6. 健康調査票の取扱について 7. 2015年度天使大学・北海道薬科大学連携公開講座について
14	2015年3月4日（水）	[審議事項] 1. 2014年度助産基礎分野の修了判定について 2. 2015年度非常勤講師委託内容の変更について 3. 2015年度助産研究科再入学試験の可否判定について [報告事項] 1. 北海道と天使大学大学院とのタイアップ事業について
15	2015年3月11日（水）	[審議事項] 1. 大学院助産研究科学則の一部改正（案）について 2. 履修規程の一部改正（案）について [報告事項] なし
16	2015年3月18日（水）	[審議事項] 1. 休学願いの許可について 2. 2015年度授業科目開講期の一部変更について 3. 2015年度非常勤講師の委託について [報告事項] 1. 2015年度開講科目における担当教員について 2. 2015年度入学式実施要領（案）について 3. 2015年度会議日程（予定）（案）について 4. 天使大学大学院助産研究科科目学則の一部改正について

回	開催年月日	審議・報告事項
17	2015年3月30日（月）	[審議事項] 1. 退学願いの許可について [報告事項] なし
18	2014年8月8日（金）	[審議事項] 1. 学則の一部改正について 2. 履修規程の一部改正について

XII. 委員会構成一覧

2014年度 校務分掌 委員会構成一覧

教育研究評議会		学長、看護栄養学研究科長、助産研究科長、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、図書館長、宗務部長、教務部長、学生部長、事務局長、助産研究科教務委員長						
区分	委員会名	委員長	委員			人数	委員任期	担当事務局
常設委員会	教務委員会	菅原	教務部長:菅原	看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、教職課程委員長	看護:大野 栄養:西 教養:日時	8	2年	学務課
	学生委員会	久保	学生部長:久保	看護:澤田・那須 栄養:金澤・岩淵 教養:田島		6	2年	学務課
	宗務委員会	小原	宗務部長:小原	看護:佐藤・ケン・スレイマン 栄養:勝野・松下 教養:小原	教養:(小原) 助産:今崎 事務局:菊池・本田	9(8)	2年	学務課
	図書情報委員会	賀来	図書館長:賀来	看護:柴田・前田(朝) 栄養:清水・岡部 教養:堀井	助産:津田 事務局:平野	8	2年	図書情報課
	入試委員会	荒川	看護学科長、栄養学科長、教養教育科長	看護:針金 栄養:荒川・西 教養:(川口) 事務局:白石		8(7)	2年	入試広報室
	広報委員会	鈴木(純)	看護:草薙・鶴木 栄養:鈴木・岡部・吉田(真) 教養:小原 事務局:白石		7	2年	入試広報室	
	自己点検評価委員会	荃津	看護栄養学研究科長、助産研究科長、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、事務局長	看護:荃津 栄養:金澤 教養:(川口) 助産:(園生)		10(8)	2年	総務課
	FD委員会	田島	看護:荒井 栄養:高桑 教養:小原 助産:本宿		4	2年	総務課	
	学術振興委員会	高島	看護:新谷 栄養:荒川・高島 教養:堀井 助産:今崎		5	2年	図書情報課	
	地域連携等委員会	山口	看護:若山 栄養:山口・長谷川 教養:田島 助産:津田		5	2年	学務課	
	就職委員会	清水	看護:佐藤 栄養:清水・百々瀬 教養:新井		4	2年	学務課	
	教職課程委員会	伊藤	教職科目担当:伊藤・山部・百々瀬・岩淵・新井		5	2年	学務課	
	研究倫理委員会	堀井	助産研究科長、看護栄養学研究科長	看護:新谷 栄養:佐藤 教養:堀井 学長指名:吉田(礼)・賀来		8(7)	2年	財務室
	キャンパス・ハラスメント委員会	谷井	学生部長、看護:谷井 栄養:(久保) 教養:伊藤 助産:本宿 事務局長 職員:平野		7(6)	2年	総務課	
	病原体等安全管理委員会	高島	専門:高島・岩淵 感染予防:武蔵 学校医:大久保		4	2年	財務室	
特設	学生懲戒委員会	その都度	学生部長、看護: 栄養: 教養: 助産:		5	2年	学務課	
	個人情報保護委員会	その都度	助産研究科長、看護栄養学研究科長、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、教務部長、事務局長		7	2年	総務課	
学長直轄プロジェクト	震災復興支援プロジェクト	リーダー:日時	看護:小澤・田中 栄養:百々瀬・高桑 事務局:高山・西村・松田					
	ヘルスケア実践開発プロジェクト							
後援会講演ワーキング			看護:荒井・臺野 栄養:峯岸・松下 教養:田島 事務局:総務課					

大学院看護栄養学研究科の科長・専攻主任

研究科長:大久保 岩男	看護学専攻主任:吉田 礼織子	栄養管理学専攻主任:佐藤 香苗
-------------	----------------	-----------------

◎ 大学院助産研究科の科長・委員会等

研究科長:園生陽子					
区分	委員会等名	委員長等	委員		
常設機関	運営会議	学長	研究科長、教授職		
	研究科会議	研究科長	教授会構成員		
区分	委員会等名	委員長等	委員		
常設機関	教務委員会	園生	(講義基礎)津田 (講義教育)園生(実習)本宿 (学生・就職)今崎		
	入試広報委員会	津田	園生、本宿、今崎		

◎ 理事会設置の委員会

区分	委員会名	委員長	委員	人数	任期	担当事務局	
常設機関	運営連絡会	理事長	学長、副理事長(2名)、常務理事(総務担当理事)、財務担当理事、カトリックセンター長、看護栄養学研究科長、助産研究科長、看護学科長、栄養学科長、宗務部長、監事:土産田、学内評議員:菅原、荒川、園生、佐保	17(14)	1年	総務課	
	将来構想委員会	理事長	学長、総務担当理事、財務担当理事、宗務部長、図書館長、研究科長(2)、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、事務局長、教職員で理事・評議員:菅原、荒川、園生	13			
	苦情処理委員会	委員	互選	理事長指名:教員=前田・山部 職員:佐保 教授会選考: 職員会議選考:鈴木			7
	懲戒委員会	代理委員	その都度互選	理事長指名:教員= 職員: 教授会選考: 職員会議選考:渡邊			5
	ハラスメント防止委員会	互選	理事長が任命する5名				5
	個人情報保護委員会	互選	(理事)小川、曾我、山本、菅原(教員)前田(明)、堀井(職員):白石				7
	衛生委員会	学長	理事長、学長、常務理事、理事(理事会選出):菅原、事務局長			5	財務室
	カトリックセンター	理事長任命	センター長:小原 カトリック司祭、常務理事、宗教教育担当者	4(3)	2年	学務課	

XIII. 委員会の活動報告

2014 年度 助産研究科教務委員会活動報告

委員会組織	委員長：園生 陽子 委員：本宿美砂子、今崎裕子、津田万寿美、齋藤慎子、 山岡久美子（～9月）、佐々木恭子（10月～）、三浦恵津子（10月～）
委員会開催数	13回
審議・報告事項	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学籍異動について ・非常勤講師の委嘱について ・授業アンケートの実施について ・前期（後期）定期試験時間割および前期（後期）評価日程について ・科目担当者について ・基礎および教育分野の実習について（各実習の実習施設、担当教員および院生配置等） ・実習指導教員の委嘱について ・前期（後期）時間割について ・拡充された教育訓練給付金の支給の対象となる教育訓練について ・修了証明書（和文・英文）の文面変更および学位名称の英語表記の変更について ・教育分野の臨床助産教育実習の宿泊費について ・2014年度「助産教育分野」修了認定について ・科目等履修生受付期間について ・再入学の規定について ・天使大学大学院助産研究科研究生期間延長願いについて ・2014年度 基礎分野「最終試験」について ・2014年度「助産基礎分野」修了認定について ・2015年度 教育計画(案)について ・2015年度 学事歴(案)について ・2015年度 助産教育分野カリキュラム改正について ・2015年度 助産教育分野カリキュラム改正に伴う新規授業科目の英語名称について ・2015年度 科目責任者、科目担当および非常勤講師について ・2015年度 教務委員会、科内会議、臨床指導者会議等日程について <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2014年度 合唱コンクール実施要領について ・キャンパスハラスメントアンケート実施について ・アッセンブリーアワーについて ・実習前ミサについて ・国際助産実習について ・2014年度 教育分野冬期休暇期間の変更について ・2015年度 独立助産実習施設の調整について ・2015年度健康調査の実施について ・2015年度 予算案について ・2015年度 授業概要（シラバス）の作成について ・2015年度 新学期オリエンテーションスケジュールについて ・休学・退学にとまなう手続きについて 	

2014年度 助産研究科入試・広報委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：津田万寿美 委員：園生陽子、今崎裕子、本宿美砂子</p> <p style="text-align: right;">計4名</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>5回</p>
<p style="text-align: center;">審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2015年度助産研究科学生募集要項について ・2015年度助産研究科入学試験 試験問題出題者について ・助産研究科入学試験 合否判定基準について ・2015年度 助産研究科推薦入学試験 合否判定について ・2016年度 助産研究科入学試験日程について ・2015年度 助産研究科前期試験 合否判定について ・2015年度 助産研究科後期試験 合否判定について ・2015年度 助産研究科再入学試験について ・2014年度助産研究科広報活動計画について（助産研究科 オープンキャンパスを含む） ・助産研究科 ポスター・フライヤーについて ・本学学生への大学院説明会について ・広報資料「天使大学入学試験に関する情報開示」について ・新入生アンケートについて ・2014年度 助産研究科オープンキャンパスの点検評価について ・2015年度助産研究科広報活動計画について ・2015年度助産研究科 入試・広報委員会予算（入試、広報）について <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助産研究科 入試・広報委員会予算について ・2015年度入学試験日程について ・2015年度広報活動に向けた学内勉強会について 	

2014年度 宗務委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：小原琢 委員：ケン・スレイマン、佐藤昇子、勝野由美子、松下真美、今崎裕子 菊池史恵、本田英里、学務課（堀切）</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>8回（2015年3月19日現在）</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2014年度イースターの集い ・毎週のミサ（前期） ・カトリック医療関連学生セミナー ・宗務委員長（宗務部長）の代行者 ・毎週のミサ（後期） ・2014年度の行事担当者 ・2014年度予算の執行 ・2014年度前期修了・卒業感謝のミサの役割分担 ・クリスマス関連の日程 ・クリスマスの集い ・死者のための追悼ミサ ・教職員修養会 ・2015年度宗務委員会予算 ・新年のミサ ・今後の宗教行事の日程 ・2014年度修了・卒業感謝のミサ <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新年度委員長 ・マリア像 ・日本カトリック学校としての自己点検評価基準 ・学校法人天使学園カトリックセンター規定・活動計画・予算 ・宗務委員会規定・活動計画・予算 ・カトリック医療関連学生セミナー ・2014年度教職員修養会 ・修了・卒業感謝のミサ ・チャペルアワー ・チャペルの戸棚及び消耗品の支出 ・議事録 ・毎週のミサ ・学生修養会 ・クリスマスの集い ・学校法人調査実地調査 ・2015年度学事歴 ・クリスマス献金 	

2014年度 図書情報委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：賀来 亨 委員：柴田 和恵、前田 朝子、清水 真理、岡部 哲子、 堀井 泰明、津田 万寿美、平野 敦子 計8名</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>10回</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後援会助成図書の選定について(9回) ・2014年度の活動計画について ・機関リポジトリの愛称及びロゴに関する応募状況と選考について ・本学リポジトリの愛称とロゴについて：Snowdrop に決定 ・2014年度後期開閉館予定表(案)について ・平成26年度 ICT による教育改善研究発表会について ・雑誌の保存期間と製本について ・洋雑誌の継続購読見直しについて ・学生からの5円コピー機導入希望について ・2015年度図書館及び情報処理室活動計画案及び予算案について ・エルゼビア社サイエンスダイレクト洋雑誌の向後3か年契約の可否について ・2014年度期中監事監査報告について ・2015年度エルゼビア社廃刊分洋雑誌の差し替えについて ・洋雑誌一夜貸出の試行について <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2013年度蔵書点検結果報告 ・2013年度図書資料費執行状況(結果報告) ・2014年度図書資料費予算配分額について ・受贈図書の選定について ・2014年度図書資料費執行状況 ・天使祭期間の図書館一般開放等について ・i-Filter の導入について ・日本カトリック大学連盟図書館協議会総会及び実務研究会の共催について ・サーバUPS の一部取り替えについて ・絶縁検査に伴うサーバ停止について ・2014年度秋の文献検索ガイダンスの実施について ・サーバウイルスソフトバージョンアップ作業について ・過年度博士論文の本学リポジトリへの収録について 	

2014年度 自己点検評価委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：荃津智子 委員：園生陽子、大久保岩男、前田明子、山部秀子、川口雄一、金澤康子、 佐保末男</p> <p style="text-align: right;">計8名</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>7回</p>
<p style="text-align: center;">審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2013年度年報の作成について ・2014年度年報の作成について ・助産研究科2012年度・2013年度年報について ・2014年度活動方針・活動内容について ・大学評価(認証評価)結果における課題について ・日本助産評価機構の認証評価結果における課題について ・改善報告書の提出について ・本学における自己点検評価のあり方について ・内部質保証のあり方について ・2014年度活動報告会について ・2015年度活動計画および予算について <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2014年度予算について ・日本助産評価機構の評価結果について ・助産研究科2012年度・2013年度年報について ・2015年度活動計画および予算について ・研究業績に係る2015年度予算要望について 	

2014年度 FD委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：田島忠篤 委員：荒井春生、高桑暁子、小原琢、本宿美砂子</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>9回</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2014年度の活動方針 ・学生による授業評価アンケート結果に基づく授業改善の体制づくり ・FD研修会について ・授業改善シートの今後の進め方について ・シラバス研修の効果に関する検証について ・2015年度活動計画案について ・2015年度予算案について <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2013年度の活動と2014年度の活動目標及び予算の確認 ・授業改善シート実施に対する回答について ・授業改善シートに関する検討会の結果について ・FD研修会講師依頼の結果について 	

2014年度 学術振興委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：高島 郁夫 委員：新谷 恵子、荒川 義人、堀井 泰明、今崎 裕子 計5名</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>8回</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の活動計画について ・前期研究報告会について(発表者：新任教員ないしは紀要執筆者) ・後期研究報告会について(発表者：特別研究費取得者) ・神戸大学安全安心科学センター長 大澤 朗 氏講演会の開催について ・紀要査読終了後の修正原稿提出時における注意点について ・紀要作製業者の変更について ・過年度博士論文のリポジトリ収録について ・今年度の課題(若手研究者の育成など)について ・2015年度活動計画案・予算案について ・天使大学紀要第15巻第1号投稿原稿の紀要掲載可否判定について ・機関リポジトリ収録許諾について：東日本大震災復興支援プロジェクト図書およびリーフレット2点 ・天使大学紀要第15巻第2号の原稿再募集について ・次年度講演会等の講師候補選考について ・紀要の抜き刷り印刷代について ・2014年度年報：IV. 研究活動・研究環境 <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天使大学紀要第14巻第2号の発刊について ・天使大学紀要第15巻第1号の原稿募集結果・査読について ・天使大学紀要第15巻第2号への投稿申込みについて ・大澤 朗 氏講演会について(報告) ・科研費獲得のための講習会(Live Onによる久留米からのライブ中継)について(実施報告) ・科研費公募要領等説明会報告 ・学内科研費公募要領等説明会について ・天使大学紀要第15巻第1号の発刊について 	

2014年度 地域連携等委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：山口敦子 委員：若山好美・長谷川めぐみ・田島忠篤・津田万寿美</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>9回</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2014年度天使大学・北海道薬科大学連携公開講座について ・2014年度委員長不在時の委員長代理について ・2014年度地域連携事業活動の把握と報告書について ・2014年度北海道薬科大学との連携事業（連携公開講座・夕張地域医療体験）について ・2014年度東区4者連携事業、5者連携事業(2014年7月末以降)について ・平成27年度ほっかいどう学インターネット講座の参加について ・2015年度天使大学・北海道薬科大学連携公開講座の実施案・ポスターについて ・2015年度活動計画書案・予算案について ・2014年度自己点検評価について ・その他 <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2014年度活動計画および予算について ・2014年度天使大学・北海道薬科大学連携公開講座進捗状況について ・2014年度天使大学・北海道薬科大学連携公開講座実施・報告について ・2014年度天使大学・北海道薬科大学連携公開講座意見交換会実施報告について ・2014年度東区4者連携事業、5者連携事業(2014年7月末以降)について ・2014年度夕張地域医療体験について ・2015年度天使大学・北海道薬科大学連携公開講座の実施案について ・平成27年度道民カレッジ連携講座前期分申込、名義後援願について ・2014年度地域連携事業活動報告書の提出について ・2015年度予算ヒアリングについて ・その他 	

2014年度 研究倫理委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：堀井泰明 委員：園生陽子、大久保岩男、新谷恵子、佐藤香苗、吉田礼維子、賀来 亨</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>10回</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員長の選出について ・書類提出締切日、審査の段取り、委員会開催日について ・研究計画の倫理審査（審査件数 29 件） ・栄養学科卒業研究の取扱い変更について ・天使大学における倫理審査のためのチェックリスト新規作成について ・国の新倫理指針に合わせた本委員会規程の次年度改正作業等について ・2015 年度の活動計画について <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学における研究計画の倫理審査手続きに関する説明会開催について ・次年度の申請からチェックリストを添付する件について 	

2014年度 キャンパス・ハラスメント対策委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：谷井康子 委員：久保ちづる、伊藤 進、本宿美砂子、佐保末男、平野敦子</p> <p style="text-align: right;">計6名</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>8回</p>
<p style="text-align: center;">審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2014年度活動方針・活動内容について ・講演会の開催について ・学生と教職員間の事案の場合のフローチャートについて ・教職員を対象とした研修会の開催について ・キャンパス・ハラスメント申込書(申立書)の提出について ・実態調査アンケートの公表方法について ・実態調査アンケートの集計方法について ・2015年度活動計画と予算について ・2014年度活動報告について <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2014年度予算について ・1年次生を対象としたガイダンスの実施について ・実態調査アンケートについて ・「パワーハラスメント対策取組支援セミナー」について ・講演会の参加状況について ・学生と教職員間のハラスメントの申立てについて ・2015年度 アssenブリー・アワー利用希望調査について 	

Ⅳ. 図書館の利用状況

2014年度入館者統計(人数)

学科・学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
看護学科	1,615	1,404	1,861	1,667	812	1,080	1,803	1,576	1,071	1,024	431	81	14,425
栄養学科	780	656	881	1,007	224	356	684	508	372	621	304	237	6,630
助産研究科	247	197	126	63	67	67	145	76	16	13	63	27	1,107
看護学専攻	41	47	38	27	18	11	25	27	29	30	21	15	329
栄養管理学 専攻	5	9	7	21	8	9	8	16	6	12	8	4	113
科目等履修生	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
教職員	204	248	200	197	144	422	235	176	176	163	146	112	2,423
学外者	45	54	39	42	34	54	35	41	16	23	40	20	443
合計	2,937	2,615	3,152	3,024	1,307	2,001	2,935	2,420	1,686	1,886	1,013	496	25,472

2014年度図書・視聴覚資料貸出統計

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
看護学科	1,148	1,092	1,358	1,076	777	1,097	1,512	1,079	843	413	206	99	10,700
栄養学科	484	643	784	529	225	299	577	502	302	161	159	49	4,714
助産研究科	198	319	178	107	105	146	205	136	31	26	108	79	1,638
看護学専攻	61	47	43	31	14	20	28	49	38	39	41	15	426
栄養管理学 専攻	22	31	29	42	19	30	15	25	15	11	8	12	259
科目等履修生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
教職員	247	282	211	141	139	251	283	167	174	129	159	107	2,290
学外者	10	13	7	10	0	4	14	25	6	5	79	0	173
合計	2,170	2,427	2,610	1,936	1,279	1,847	2,634	1,983	1,409	784	760	361	20,200

XV. 施設・設備の状況

大学設置基準との対比 (単位: m²)

	大学の現有面積	大学設置基準面積	大学設置基準との差 (基準外を除く)
校地面積	30,390	6,910	23,550
校舎面積	14,124	6,402	7,722

校舎内訳

	建設年	経過年数	面積(m ²)	備考
1号館	1976 (S51)	35	937.76	2階建
2号館	1995 (H 7)	16	707.43	2階建 (耐震構造)
3号館	1963 (S38)	48	1,977.01	3階建 (耐震補強済)
4号館	1971 (S46)	40	2,429.06	3階建 (耐震補強済)
5号館	1980 (S55)	31	396.27	2階建
6号館	2000 (H12)	11	2,674.91	6階建 (耐震構造)
7号館	2002 (H14)	9	2,330.13	4階建 (耐震構造)
8号館	2004 (H 7)	7	1,855.69	4階建 (耐震構造)
体育館	1976 (S51)	35	736.52	
中沼グランド更衣室	1992 (H 4)	19	79.38	平屋建
計	—	—	14,124.16	

学部・大学院研究科ごとの講義室、演習室等の面積・規模

学部・研究科	講義室・演習室・学生学習室等	室数	総面積(m ²)	専用・共用の別	収容人員(総数)	学生総数	在学生1人当り面積(m ²)	備考
看護栄養学部	講義室	12	1,519	共用	1,223	754	2.01	看護栄養学研究科と共用
	演習室	12	345	共用	221	805	0.52	大学院と共用
	学生学習室	2	288	共用	160	754	0.38	
看護栄養学研究科	講義室	/	/	/	/	/	/	
	学生学習室	2	272	共用	92	11	24.72	助産研究科と共用
助産研究科	講義室	2	227	専用	51	51	4.45	
	学生学習室	1	246	共用	82	62	3.96	看護栄養学研究科と共用
体育館		1	737	/	/	/	/	
講堂		1	737	/	/	/	/	

学部 of 学生用実験・実習室の面積・規模

分 類	室 名	収容人数	面積(m ²)	1人当り面積(m ²)
実験・実習室 (看護学科)	第1看護実習室	100	346	3.46
	第2看護実習室	10	41	4.10
	第3看護実習室	20	46	2.30
	第4看護実習室	10	23	2.30
	第5看護実習室	10	27	2.70
実験・実習室 (栄養学科)	理化学実験室	60	223	3.72
	生理学実験室・微生物学実験室	65	205	3.15
	動物実験室	5	6	1.20
	給食経営管理自習室・実習食堂	130	350	2.69
	第2臨床栄養実習室	60	386	6.43
	官能検査室	10	30	3.00
	食品・調理実験実習室(準備室含む)	60	257	4.28
	第1カウンセリング室	3	8	2.67
	第2カウンセリング室	3	9	3.00
	栄養教育実習室	60	155	2.58
	第1臨床栄養実習室	15	45	3.00
実験・実習室(共通)	和室	10	69	6.90
情報処理室	第1情報処理室	60	113	1.88
	第2情報処理室	56	138	2.46
計		747	2,477	3.32

大学院 of 学生用実験・実習室の面積・規模

分 類	室数	総面積 (m ²)	収容人数 (総数)	収容人員1人 当りの面積(m ²)	使用研究科等	備考
実習室	19	2,477	747	3.32	看護栄養学研究科	看護栄養学部と共用
実習室	1	174	40	4.35	助産研究科	
計	20	2,651	787	3.37	—	—

Ⅷ. 財務状況

貸借対照表関係の財務比率表

(%)

	分類	比率	評価	算式	2013年度	他法人
1	自己資金は充実されているか	自己資金構成比率	△	$\frac{\text{自己資産}}{\text{総資金}}$	83.1	84.5
2		消費収支差額構成比率	△	$\frac{\text{消費収支差額}}{\text{総資金}}$	4.2	△1.3
3		基本金比率	△	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	99.6	96.1
4	長期資金で固定資産は賄われているか	固定比率	▼	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}}$	85.8	80.2
5		固定長期適合率	▼	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金} + \text{固定負債}}$	81.2	74.8
6	資産構成はどうなっているか	固定資産構成比率	▼	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	71.7	75.1
7		流動資産構成比率	△	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	28.3	24.9
8		減価償却比率 (図書を除く)	～	$\frac{\text{減価償却累計額}}{\text{減価償却資産取得額}}$	52.0	43.4
9	負債に備える資産が蓄積されているか	内部留保資産比率 [※]	△	$\frac{\text{内部留保資産}}{\text{総資産}}$	43.0	18.1
10		流動比率	△	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	242.2	238.2
11		前受金保有率	△	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	257.4	286.7
12		退職給与引当預金率	△	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	83.1	65.7
13	負債の割合はどうか	固定負債構成比率	▼	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総資金}}$	4.8	6.7
14		流動負債構成比率	▼	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総資金}}$	11.7	10.4
15		総負債比率	▼	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	16.4	17.2
16		負債比率	▼	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	19.7	18.3

※内部留保資産 = その他の固定資産 + 流動資産 - 総負債

(注1) 「評価」は△：高い値が良い ▼：低い値が良い ～：どちらともいえない を示す。

(注2) 「他法人」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」2014年度版による。

消費収支計算書関係の財務比率表

(%)

	分類	比率	評価	算式	2013年度	他法人
1	経営状況はどうか	帰属収支差額比率	△	$\frac{\text{帰属収入} - \text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	10.5	4.8
2	収入構成はどう なっているか	学生生徒等納付金比率	～	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	77.5	78.9
3		寄付金比率	△	$\frac{\text{寄付金}}{\text{帰属収入}}$	0.8	1.8
4		補助金比率	△	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	15.2	11.8
5		人件費比率	▼	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	60.5	56.1
6	支出構成は適切で あるか	教育研究経費比率	△	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	24.1	26.5
7		管理経費比率	▼	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	4.7	11.1
8		借入金等利息比率	▼	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{帰属収入}}$	0.0	0.4
9		基本金組入率	△	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{帰属収入}}$	9.6	10.9
10		減価償却費比率	～	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{消費支出}}$	7.7	11.0
11	収入と支出のバラ ンスは取れている か	人件費依存率	▼	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	78.0	71.2
12		消費収支比率	▼	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	99.0	107.0

編集後記：

天使大学大学院助産研究科年報 - 自己点検・評価報告書 - 2014 年度版が発行となりました。年報は、教育研究活動の評価を教職員間で可視化するシステムづくりの一つとして大学全体で次年度の課題を明らかにするものとして活用していただければと考えております。

今後も大学の課題を全教職員が認識し、課題の改善に向けた活動へと発展する自己点検評価活動を目指したいと思います。大学の自己点検評価活動についての忌憚のないご意見等を今後どうぞよろしくお願い申し上げます。

2015 年 6 月

自己点検評価委員会委員長 荃津 智子

2015 年度 自己点検評価委員会

委員長：荃津 智子（看護学科）

委員：大久保岩男（看護栄養学研究科長）

園生 陽子（助産研究科長）

前田 明子（看護学科長）

山部 秀子（栄養学科長）

川口 雄一（教養教育科長）

佐保 末男（事務局長）

金澤 康子（栄養学科）

総務課：上村 俊哉

2014年度

天使大学大学院 助産研究科

年 報

—自己点検・評価報告書—

2015年6月発行

自己点検評価委員会

天使大学

〒065-0013 北海道札幌市東区北13条東3丁目1番30号

TEL 011-741-1051 FAX 011-741-1077

<http://www.tenshi.ac.jp>
